

授業計画書 2024

中部地区医師会立
ぐしかわ看護専門学校

成績評価方法

【成績評価方法】

・単位認定・進級及び卒業認定の成績評価は本校学生便覧の「履修規程」の評価基準で行う

評価	評点
優	80 点以上 100 点
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

【大学等修学支援の下位 1/4 の評価方法】

・各科目の点数を GPA のポイントに置き換え算出。

評価点数	評価表示方法	ポイント
93 - 100	A	4.0
90 - 92	A-	3.7
87 - 89	B+	3.3
83 - 86	B	3.0
80 - 82	B-	2.7
77 - 79	C+	2.3
73 - 76	C	2.0
70 - 72	C-	1.7
67 - 69	D+	1.3
63 - 66	D	1.0
60 - 62	D-	0.7
59 - 0	F	0

各分野の考え方

基礎分野の考え方：

学生が、看護の対象である人間の「命」を見つめ「生命の尊厳（命どう宝）」を基本に豊かな人間性を培い、看護専門職として発展していける思考の基盤づくりを目指す。

＜科学的思考の基盤＞では、論理的・批判的な思考の育成と表現する能力を養うために「論理的思考法」を設定し、情報を科学的にとらえ分析・処理・選択する能力を育成するために

「情報科学」、「情報リテラシー」を設定した。教育の基礎的知識を培い、主体的判断と行動を促すための意図的・系統的働きかけを学ぶことを目的として「教育学」を設定した。

＜人間と生活、社会の理解＞では、人間を理解するために人間とは何かを深く掘り下げ、生きることの意味や人間の行動を決定するものは何か、「生命の尊厳（命どう宝）」とは何かを学生自身で思考させるために「生命と倫理学」、「心理学」、「人間関係論」を設定した。また、社会との関わりに関心を持たせ、社会生活の中で国際的視野を持って積極的に学習し行動できる人間を育成するために、「社会学」、「文化人類学」、「生活環境論」、「臨床英語」を設定した。さらにコミュニケーション能力としての「読む・書く・表現する能力」と個々の感性を磨くために「コミュニケーション論」を設定した。

専門基礎分野の考え方：

＜人体の構造と機能＞では、看護に必要な基礎知識である人間の構造と機能を理解するために、系統別に「形態機能学Ⅰ～Ⅲ」、さらに形態機能と人の日常生活と看護の視点で捉え、臨床判断の基本的視点を学ぶために、「形態機能学Ⅳ」を設定した。さらに、人間の生命維持や健康の保持に関して理解するために「生化学」、「栄養と健康」を設定した。

＜疾病の成り立ちと回復促進＞では、人間が健康を障害していく原因や疾病に罹患する過程とその治療方法を「微生物学」、「病理学」、「病態生理学Ⅰ～Ⅴ」、「薬理学」を学ぶなかで理解する。

＜健康支援と社会保障制度＞では、生活している人間、その周りを囲む環境を幅広く理解するために「公衆衛生学」、「社会福祉」、「社会保障」を設定し、さらに、看護のなかで知識として必要とされる関係法を理解するために「看護関係法令」を設定した。また、人間がセルフケアを高めるための方法を学び、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも参加する指定をもてるなど幅広い学びができるように「現代医療論」を設定した。

専門分野の考え方：

＜講義・演習＞

看護職を実践するものは、人間理解と疾病の基礎的知識を持つことが必要である。基礎看護学では基礎的看護技術（基本共通技術、日常生活援助技術、診療に伴う援助技術、フィジカルアセスメント）を学び、看護の対象である人間のライフサイクルで起こる健康問題に関する援助の方法を習得する。ライフサイクルにおける人間の特徴を理解し、個々の人間の全体像を描きながら、専門的な看護の知識と技術を学ぶ。また看護援助において、安全で安楽な技術を提供するために知識・技術・態度を習得することを目的としている。さらに、看護実践は科学的根拠いわゆる研究成果に基づいた成果が求められる。そこで、看護・理論・研究が一連の繋がりであることを学ぶために「看護と研究」を設定した。

地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを理解し、支える能力を強化し、地域包括ケアシステム等を推進するために地域で療養する人々だけではなく、生活する人々とその家族を看護の対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護実践をめざす科目を設定した。

領域横断科目は、縦断的かつ横断的に看護を捉え、健康・健康障害と回復過程・終末期などの健康レベルを踏まえ、多角的に看護を実践できるように健康状態別看護の実践力をつけることをねらいとし、教育内容の重複や教育内容の共通部分を見いだし、それを新たな科目の中で強化することに

した。健康状態別看護（領域横断）として「健康支援と看護」、「周手術期と看護」、「終末期と看護」、「薬物療法と看護」の4科目を設定した。また、各領域の臨地実習の前段階において、対象をより臨地に近い状況でイメージして看護実践ができるように、シミュレーション学習による臨床判断能力を強化する「臨床判断と看護」の科目を置いた。

成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学では、ライフサイクルにおける看護実践を看護の対象と実際に接することで学習を深める。対象の全体像を理解した上で看護計画を立案し、看護実践を行い、行った看護の振り返りができることを目標にした。すなわち看護を行うために「看護過程の展開」ができることを目指している。このことは、実践できる専門職としての看護者を育てるという目標を達成することにもなる。

看護の統合と実践では、チーム医療の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップ、多職種との連携・協働、看護管理、さらに医療安全を学ぶ科目を設定した。さらに、看護技術の総合的な評価や諸外国における保健・医療・福祉の課題、災害時の看護における基礎的知識を学ぶ科目を設定した。

＜臨地実習＞

臨地実習は、病院や施設・在宅等のさまざまな場における看護の対象に行う。人間尊重を基盤とし、看護の対象を統合された存在としてとらえ、学習した知識・技術・態度を応用し科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を育成する内容とした。また、それぞれの場において、チーム医療における看護職の役割を学習させる内容とした。また、臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶとした。

「基礎看護学実習Ⅰ」は、看護の対象と療養環境を学ぶ学習内容とした。「基礎看護学実習Ⅱ」は、対象との援助関係の形成ができ、基礎看護技術を患者に適用し、対象との関わりから看護を振り返る学習内容とした。「基礎看護学実習Ⅲ」は、看護の対象及び対象の抱える健康課題を理解し、援助的関係の形成を行う。また、基礎看護技術を患者に適用するにあたり、看護過程の基本を学ぶ内容とした。

成人看護学は、成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期・終末期)、成人・老年看護学実習Ⅱ(周手術期)の2段階で学ぶ内容とした。

成人・老年看護学実習Ⅲは、慢性・回復期から自立に向けた成人または高齢者の看護を学ぶ内容とした。

小児看護学実習は、健康な小児の看護を学ぶ保育園実習とさまざまな健康の状態にある小児の看護を病院実習で学ぶ内容とした。

母性看護学実習は、妊産婦・褥婦、新生児・未熟児の看護を病院実習で学ぶ内容とした。

精神看護学実習は、心の健康状態への看護を病院実習で学ぶ内容とした。地域・在宅看護実習は、地域での人々の健康と暮らしを支える看護を学ぶ内容とした。

地域・在宅看護論実習は、地域で暮らす人々の理解と地域でどのように健康を保持しているかを学ぶ内容の地域・在宅看護論実習Ⅰを1年次早期に配置した。地域のあらゆる場で暮らす療養者の看護を地域・在宅看護論実習Ⅱ、地域での暮らしを支える看護を地域・在宅看護論実習Ⅲとした。

各看護学(論)の目標・目的

基礎看護学

《教育目的》

看護の主要概念を学び、看護専門職としての機能や位置づけを理解し、各看護学に共通する看護の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

《教育目標》

1. 看護の基本概念や理念を学び歴史的に変化してきた過程を理解する
2. 看護の対象である人間を生命尊重の視点で深く学び総合的に理解する
3. 看護の機能と役割を学び看護活動の概要を理解する
4. 多職種との協働、調整能力に必要なマネジメントの基本を理解する
5. 看護実践の基礎となる看護技術を科学的根拠に基づき安全に提供できる基礎的能力を身につける
6. 健康障害をもつ対象及び家族の特徴を理解し、基本的看護について学ぶ
7. 事例研究を行い、看護研究を行う基本的態度（客観的・科学的・倫理的）を養う。

地域・在宅看護論

《教育目的》

地域で生活している療養者とその家族の生活スタイルや価値観を理解し、生活の自立に向けてセルフケア能力を高めるための支援及び生活の質（QOL）の維持・向上に向けての支援方法を学ぶ。さらに、対象が望ましい生活をするための社会資源の活用、調整の必要性を理解すると共に、保健・医療・福祉サービスにおける看護の役割を理解する。

《教育目標》

1. 地域・在宅看護の概念と変遷を学び、在宅看護の必要性を理解する。
2. 地域・在宅看護の対象を理解し、看護の役割・機能を学ぶ。
3. 療養者とその家族の生活の自立に向けて必要な基礎的能力を身につける。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として人々のニーズを把握し、支援できる基礎的能力を身につける。
5. 日常から社会に目を向け、生活者としての視点で人々を理解する。

健康状態別看護（領域横断）

《教育目的》

対象の健康状態やその変化に応じた看護の実践およびその実践に必要な臨床判断の基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. ライフステージ各期における健康上の課題および学習支援の特徴を学び、個人・集団への健康学習支援能力を習得する。
2. 薬物動態をふまえ各発達段階の対象特性に応じた薬物療法の看護の実際を展開できる。
3. 周手術期における生体反応および発達段階による身体的・精神的・社会的な影響を踏まえた周術期の看護の実際を展開できる。
4. 死を迎えつつある人に必要な症状のコントロールや家族のケアおよび多様な場における終末期の看護について理解できる。
5. 成人・老年・小児・母性・精神看護学の特徴ある事例をもとに、臨床判断に基づいた看護実践ができる。

成人看護学

《教育目的》

社会の中で生活している人間を総合的に捉え、成人期にある対象を理解する。また、個々の生活様式や価値観をとらえたうえで、あらゆる健康レベル及びライフステージに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. 成人期における看護の概念を理解し、成人における倫理・看護の役割と機能を理解する
2. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的・霊的側面を統合的に理解できる
3. 成人期にある対象の多様な健康問題を理解する
4. 成人期にあらゆる健康レベルにある対象とその家族への援助を実践できる基礎的能力を身につける
5. 多職種との連携・調整の方法を理解する

老年看護学

《教育目標》

老年期にある対象の特徴を理解し、高齢者の生活と健康問題を統合しながら老人保健の動向、健康の保持増進、疾病の予防、高齢者の取り巻く家族や支援システムについて学ぶ。また、加齢が健康に及ぼす影響について理解し、回復レベルに応じた看護を学ぶ。

《教育目標》

1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化や特徴を理解する
2. 高齢者の健康障害が、日常生活動作に及ぼす影響について理解し、高齢者の健康を支える基本的技術を理解する
3. 疾患をもつ高齢者とその家族を含めたアセスメントの視点およびその看護について学ぶ
4. 高齢者に対するリハビリテーション看護の意義や目的を理解する
5. 保健医療福祉の動向について学び、チームの一員として他職種との連携・協働のあり方を学ぶ
6. 老年期にある高齢者を理解し、自己の看護観を養う

小児看護学

《教育目標》

子どもの成長発達を理解し、社会の変化が子どもにどのように影響しているかを考え小児看護の基礎的能力を養う。

《教育目的》

1. 子ども観の変遷から子どもの人権について考え子どもの健康と看護を理解する
2. 子どもを取り巻く社会の現状と課題について理解する
3. 子どもの成長発達段階を理解する
4. 子どもと家族を小児看護の対象として捉え、看護実践できる知識技術態度を身につける
5. 子どもの健康保持増進へのニーズを把握し、資源活用と支援できる基礎的能力を身につける

母性看護学

《教育目標》

女性を取り巻く社会の変化及び母性看護の変遷を学び、女性が健全なライフスタイルを送るための看護が実践できる基礎的能力を習得する。

《教育目的》

1. 性と生殖に関する健康と看護について学び、生命倫理について考える
2. 女性を取り巻く社会の現状と課題について学び、母性看護の意義について理解する
3. 母性看護の対象となる人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を身につける
4. 母子保健医療福祉チームの一員として人々のニーズを把握し、社会資源活用の支援ができる基礎的能力を身につける
5. 自己の健全な母性・父性形成の発達を促す

精神看護学

《教育目的》

精神看護の対象となるあらゆる人々を理解し、精神の健康の保持・増進、精神の健康障害を持つ対象と家族を含めた健康回復への支援および人間関係形成の基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. 精神看護の意義と心について理解し、精神の健康の保持・増進に必要な知識を理解する
2. 社会の変化に伴う精神の健康に関心を持ち、精神看護の理解を深めることができる
3. 精神障害者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解し、精神障害者をひとりの人間として人権を尊重することができる
4. 精神保健医療福祉の法律や制度の動向に目を向け、資源の活用方法を理解する
5. 治療的コミュニケーションを理解し、自己理解・他者理解に努めることができる
6. 精神障害をもつ人とその家族を理解し、精神保健医療福祉の視点から支援を考えることの必要性を理解する

看護の統合と実践

《教育目的》

対象の理解を深め、看護の知識・技術・態度を統合し実践できる基礎的能力を習得する。

《教育目標》

1. 看護管理の意義と役割について理解する
2. 多職種と協働しメンバーシップ・リーダーシップの意義・役割について理解する
3. 医療安全・事件事例分析・シミュレーションを通して、倫理的判断能力・リスクマネジメント能力を養う
4. 災害看護の概要及び、災害医療における看護の役割、災害救護活動の実践を学ぶ
5. 国際的な医療・看護活動の実践について理解する
6. 看護の知識・技術・態度を統合し、基礎的看護実践能力の習得をする

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
論理的思考法				非常勤講師				有無		無	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
2年次／後期			30時間／1単位／15回						講義・演習		
講義の目的と目標											
【目的】											
論理的思考法を学ぶとともに、その表現方法を養う。											
【目標】											
1. 論理的・批判的に思考する方法について理解できる。											
2. 課題や問題に対して、客観的な情報を基に論理的・批判的に考察することの重要性を理解できる。											
3. 論理的・批判的に考えたことを表現でき、看護実践において必要な思考を学ぶ。											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
情報科学				非常勤講師							
								有無		無	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
2年次／後期			20時間／1単位／10回						講義・演習		
講義の目的と目標											
【目的】											
情報収集・分析、処理の基礎的知識と技術を学び、その活用方法と応用する能力を養う。											
【目標】											
1. 情報の収集・分析、処理する方法を理解する											
2. 情報処理の基礎的知識と手法を理解し、看護研究等に活用できる											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
情報リテラシー				非常勤講師、専任教員				看護師			
								有無		有	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			15時間／1単位／8回						講義・演習		
講義の目的と目標											
【目的】											
情報化社会において適切に情報を処理し、活用する基本的な能力を修得する。											
【目標】											
1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技術を理解する。											
2.問題解決、探求における情報活用の方法を理解する。											
3.情報モラル、情報セキュリティなどについて理解する。											

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
教育学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標 【目的】 人間の成長発達における教育の重要性を学び、教育の基礎的知識を養う。 【目標】 1. 人間の成長発達における教育の意義について理解できる。 2. 看護実践における教育方法の基礎的知識が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	
1～2	1.社会のなかの教育と看護	1)社会・文化・人間形成 2)機能化された社会における教育と看護		講義	
3～5	2.教育とはなにか 3.教育の対象 4.社会変動と教育	1)教育の概念 1)子ども観と発達 1)大衆社会 2)大衆消費社会と情報化社会 3)少子化動向		講義	
6～7	5.教育の組織化 6.教育をなりたせるもの	1)学校 1)教授 2)訓育 3)養護 4)発達		講義	
8～9	7.学びの場	1)家庭と学校		講義	
10～12	8.教育の目標と評価	1)評価と目標 2)現在の目標・評価論 3)パフォーマンス評価 4)評価の開発		講義	
13	10.現代教育の課題	1)キャリア教育 2)ジェンダーとセクシュアリティ 3)特別ニーズ教育 4)生涯学習		講義	
14～15		発表・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院				・発表(プレゼンテーション)	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
コミュニケーション論				非常勤講師							
								有無		無	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			15時間／1単位／8回						講義		
講義の目的と目標											
【目的】 人間関係を成立する上で必要なコミュニケーションの概念を理解した上で、お互いの考えを 認知、共感、理解し、有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。											
【目標】 1. コミュニケーションを構成する「話す・聞く」「読む」「書く」能力を身につける。 2. 基本的なコミュニケーションの意義を理解し、情報を正確に把握・分析して表現できる。 3. 他者を尊重した適切なコミュニケーションとは何かを理解する。											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
生命と倫理学				非常勤講師							
								有無		無	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			30時間／1単位／15回						講義		
講義の目的と目標											
【目的】											
生命の尊厳、人間尊重について理解し、医療・看護の基盤となる倫理観を学ぶ。											
【目標】											
1. 生命の尊厳について理解できる。											
2. 人間尊重についての考えを深めることができる。											
3. 医療従事者として基盤となる自己の生命観・倫理観を培う。											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
文化人類学				非常勤講師				有無		無	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			15時間／1単位／8回						講義		
講義の目的と目標											
【目的】											
世界の文化を幅広く見つめ、人間生活や身近な地域社会に関心を持つことができる。											
【目標】											
1. 世界の文化を学び、人間生活を理解する											
2. 地域の文化について理解を深める											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
生活環境論				非常勤講師							
								有無		無	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			15時間／1単位／8回						講義		
講義の目的と目標											
【目的】											
生活環境における生態系の在りようを理解した上で、健康の基盤となる生活環境を学ぶ。											
【目標】											
1. 生態系と生活環境の関連が理解できる。											
2. 食・衣・住生活の場面から環境を考える。											
3. 生活環境が人間の生活に及ぼす影響について理解する。											

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会学			非常勤講師		有無	無
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類
1年次／前期		30時間／1単位／15回				講義
講義の目的と目標						
【目的】						
社会学における基本的な概念を学び、人間社会について理解を深める。						
【目標】						
1. 社会の概念を理解する。						
2. 社会的存在として生活を営む人間を理解する。						
3. 社会と看護の関連について理解できる。						

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
心理学				非常勤講師				臨床心理士			
								有無		有	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			30時間／1単位／15回						講義		
講義の目的と目標											
【目的】											
心理学の基礎的知識を学び、自己と他者を理解することで人間理解につなげる。											
【目標】											
1. 心理学の概念を理解できる。											
2. 人間の心理的発達を理解できる。											
3. 人間の心理や行動を客観的に分析する能力を高め、自己と社会への理解を深める。											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
人間関係論				非常勤講師				臨床心理士			
								有無		有	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
1年次／前期			30時間／1単位／15回						講義		
講義の目的と目標											
【目的】											
関係的存在としての人間の特徴を理解し、人間関係のあり方を学ぶ。											
【目標】											
1. 関係的存在としての人間を理解できる											
2. 看護の基礎となる人間関係について理解できる											
3. より良い人間関係を築くための方法について理解できる											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
臨床英語				非常勤講師				看護師(外国人外来担当)			
								有無		有	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数					講義の種類			
2年次／前期			45時間／2単位／23回					講義・演習			
講義の目的と目標											
【目的】											
看護実践の場で活かせる看護に必要な英語を学ぶ。											
【目標】											
1. 医療の場で用いる医学、看護に必要な英語の基礎が理解できる。											
2. 看護場面を想定した英語によるコミュニケーション能力を高める。											

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
リラクゼーション				非常勤講師				介護アロマセラピスト			
								有無		有	
年次／開講時期			時間数／単位数／講義回数						講義の種類		
2年次／前期			15時間／1単位／8回						講義・演習・実技		
講義の目的と目標											
【目的】											
ストレスの基礎的知識や対処方法を学び、リラクゼーションをセルフケアと看護につなげる。											
【目標】											
1.ストレスの概念を理解する。											
2.リラクゼーションの理論と実際を理解できる。											

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学 I		非常勤講師		薬剤師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標 【目的】 人体の形態と構造及びその機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する。 【目標】 1. 人体の構造と機能を学ぶ必要性を説明できる。 2. 人体がどのような構造で、それぞれの部位にどのような器官が位置しているのか記述できる。 3. 人体がどのような素材によって形づくられ、それらがどのような働きをしているのか記述できる。 4. 生命維持システムとそれを営む器官、生命の活用を営む器官、人体を保護して種を保存する機能を営む器官について記述できる。 5. 人体の生命維持の基盤となる呼吸器系、血液・循環器系の構造と機能について記述できる。					
講義数	講義内容				教育方法
1～4	1. 解剖学生理学の基礎知識	1) 看護と「人体の構造と機能」 2) 形からみた人体 3) 素材からみた人体(細胞・組織) 4) 機能からみた人体、ホメオスタシス			講義
5～9	2. 呼吸	1) 呼吸器の構造 2) 呼吸とは			講義
10～14	3. 血液・循環	1) 血液の組成と機能 2) 循環器系の構成 3) 心臓の構造と機能 4) 末梢循環系の構造 5) 血液循環の調節 6) リンパとリンパ管			講義
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				・筆記試験 ・小テスト ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学Ⅱ		非常勤講師		薬剤師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 人体の各器官系統の機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する					
【目標】 人体の生命維持の基盤となる消化器系・代謝、泌尿器系・体液、自律神経系・内分泌系の構造と機能について記述できる					
講義数	講義内容				教育方法
1～5	1. 栄養の消化と吸収	1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4) 腹膜			講義
6～9	2. 体液の調節と尿の生成	1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路 3) 体液の調節			講義
10～14	3. 内臓機能の調節	1) 自律神経系による調節 2) 内分泌系による調節 3) 内分泌腺と内分泌細胞 4) ホルモン分泌と調節の実際			講義
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト					評価方法
・系統看護学講座：解剖生理学 人体の構造と機能①，医学書院					・筆記試験 ・小テスト ★60点未満は、再試験
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学Ⅲ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
人体の各器官系統の機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する					
【目標】					
1. 生命を活用する機能としての骨格系・筋系、神経系・感覚器系の構造と機能について記述できる					
2. 人体を保護し、種を保存する機能としての皮膚・免疫系、生殖器系の構造と機能について記述できる					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学Ⅳ		非常勤講師、専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 これまで既習した人体の構造を想起し、生きていることや日常生活行動にどう影響するのかを考え、看護に繋げていく					
【目標】 1. これまで既習した人体の構造と機能を想起し、人間はどのような人体の構造と機能を使って生きているのか、日常生活行動を営んでいるのか説明できる 2. 病気や障害等で人体の構造と機能が障害された場合、それが生きていることや日常生活行動にどう影響するのかを考え、看護に繋げていくことを説明できる					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1. 日常生活行動からみるからだ	1) 日常生活とからだ			講義
3～11	2. 日常生活行動を支える 3. 日常生活行動を遂行する	1) 日常生活行動を支えるからの機能 (1) 恒常性維持のための流通機構 (2) 恒常性維持のための調整機構(液性) (3) 恒常性維持のための調整機構(神経性) 1) 日常生活行動を遂行するためのからだ構造と機能 (1) 息をする (2) 動く (3) 食べる (4) おしっこやうんちをする (5) コミュニケーションをとる (6) 眠る (7) お風呂に入る (8) 子どもを生む			演習
12～15	4. 障害による日常生活行動への影響と看護	1) 身体の構造と機能が障害された場合の日常生活行動への影響 ・看護を考える 2) 発表・まとめ			演習
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				・プレゼンテーション ・ピュア評価 ・小テスト ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生化学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 生体を構成する物質とその代謝作用を学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。					
【目標】 1. 人体を構築している臓器、細胞の中で起こっている物質の代謝を理解する。 2. 生体の物質代謝を学び、疾病の成り立ちや回復を科学的に解釈できる基礎的能力を養う。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1. 代謝総論	1) 代謝とは 2) 代謝とその制御 3) ホルモンの作用と代謝の調整			講義
2～7	2. 栄養素の構造と性質	1) 細胞 2) 糖類 3) 脂質 4) アミノ酸とタンパク質 5) 核酸とヌクレオチド 6) ビタミン、酵素			講義
8～14	3.さまざまな代謝	1) 糖質代謝 2) 脂質代謝 3) タンパク質とアミノ酸代謝 4) 核酸・ヌクレオチド代謝 5) 遺伝情報			講義
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学, メディカ出版				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
栄養と健康		非常勤講師		管理栄養士	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		20時間／1単位／10回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
人間の健康生活を支える食事について考え、生体に取り込まれた栄養素の働きを理解する。					
【目標】					
1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。					
2. 人体における栄養素の働きを理解できる。					
3. 食事療法における健康障害の改善方法を理解する。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
微生物学		非常勤講師		看護師・保健師・助産師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
微生物が生体に及ぼす影響を理解し、病原微生物の種類と特徴から生体への影響を予防する方法を学ぶ。					
【目標】					
1. 感染と発病の概念の違い、感染症の予防と治療について理解する。					
2. 病原体と疾患の関係が理解できる。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病理学		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害に関する病因と病変について学ぶ。					
【目標】 1. 人間の病気の原因とその成り立ちを理解する。 2. 病変の分類について学び、形態的・機能的変化について理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1. 病理学で学ぶこと	1)病理学とは 2)疾病のさまざまな原因 3)疾病の分類			講義
2	2. 先天異常と遺伝子異常	1)先天異常とは 2)遺伝子異常 3)遺伝性疾患 4)染色体異常による疾患 5)胎児の障害 6)先天異常・遺伝性疾患の診断			講義
3	3. 代謝障害	1)細胞の損傷と適応 2)物質沈着 3)脂質代謝障害と疾患 4)タンパク質代謝障害と疾患 5)糖質代謝障害と疾患 6)その他の代謝障害と疾患			講義
4	4. 循環障害	1)循環器系の概要 2)局所性の循環障害 3)全身性の循環障害 4)リンパの循環障害			講義
5	5. 炎症と免疫、膠原病	1)炎症 2)炎症の各型 3)免疫 4)アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 5)移植と免疫			講義
6	6. 腫瘍	1)腫瘍の定義と分類 2)腫瘍の発生病理 3)悪性腫瘍の転移と進行度 4)腫瘍の診断と治療 5)腫瘍の統計			講義
7	7. 老化と死	1)細胞の老化と個体の老化 2)加齢に伴う諸臓器の変化 3)個体の死			講義
8		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-疾病のなりたちと回復の促進[1]-病理学, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅰ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 呼吸器、循環器、血液・造血器、内分泌疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1.呼吸器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2.循環器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3.血液・造血器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4.内分泌疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	【呼吸器疾患】 1.症状と病態生理	1)呼吸不全 2)呼吸困難 3)胸痛 4)咳嗽 5)喀痰・血痰・喀血 6)呼吸音の異常 7)その他の症状 ばち状指 発熱 嚔声 いびき 意識障害			講義
3～4	2.診察・検査・治療	1)診察 問診 身体所見 2)検査 血液検査 喀痰検査 胸水検査 肺生検 血液ガス分析 呼吸機能検査 画像検査 内視鏡検査 睡眠時呼吸モニタリング 3)治療 薬物療法 吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション 気道確保 胸腔ドレナージ 手術療法			講義
5～8	3.主な疾患	1)呼吸器系感染症 かぜ症候群 気管支炎 インフルエンザ 肺炎 肺膿瘍 肺真菌症 肺結核 誤嚥性肺炎 2)気道疾患 肺気腫 慢性閉塞性肺疾患 気管支喘息 気管支拡張症 横隔膜ヘルニア 3)胸膜疾患 胸膜炎 膿胸 気胸 嚢胞性肺疾患 胸膜腫瘍 4)縦隔疾患 5)横隔膜疾患 6)間質性肺疾患 7)肺循環障害 8)換気異常 9)肺腫瘍 10)胸部外傷・救急時の対応			講義
9	【内分泌疾患】 1. 症状と病態生理	1)体重の変化 肥満 るいそう 2)身長の変化 高身長 低身長 3)体毛の異常 多毛 脱毛 男性化徴候 4)容貌変化 骨格異常 眼の異常 甲状腺腫大			講義

10	2. 診察・検査・治療	1)診察 問診 身体所見 2)検査 ①内分泌機能検査 ホルモンの血中・尿中濃度測定 ホルモン負荷試験 画像検査 3)治療 ①薬物療法 ホルモン補充療法 ホルモン分泌抑制療法 ②手術療法 下垂体手術 甲状腺手術 副甲状腺手術 4)画像検査	講義
11～12	3. 疾患の理解	1)間脳・下垂体疾患 2)甲状腺疾患 3)副甲状腺疾患 4)副腎皮質・髄質疾患 5)消化管ホルモンの疾患 6)多発性内分泌腫瘍症 7)内分泌疾患の救急治療	講義
13		筆記試験・まとめ(1回目)	
14～15	【循環器疾患】 1. 症状と病態生理	胸痛 動悸 呼吸困難 浮腫 チアノーゼ 失神 間欠性跛行 レイノー現象 ショック	講義
	2. 検査と治療・処置	1)診察と診断の流れ 問診 視診 触診 聴診	
16～18		2) 検査 心電図 X線 心エコー 心臓カテーテル法 心拍出量測定 中心静脈圧測定 動脈血酸素分圧測定 動脈血ガス分析 核医学検査 磁気共鳴画像法 コンピュータ断層撮影 3)治療・処置 (1) 内科的治療 薬物療法 心臓カテーテル法 ペースメーカー (2) 外科的治療 冠動脈バイパス術 弁置換術 大血管再建術 血栓除去法 (3) 補助環境装置	講義
19	3. 主な疾患	虚血性心疾患 心不全 血圧異常 不整脈 弁膜症 心膜炎 心筋疾患 動脈系・静脈系・リンパ系の疾患	講義
20	【血液・造血器疾患】 1. 症候と病態生理	貧血 赤血球増加症 白血球減少・増加症 出血傾向 血栓傾向 リンパ節腫脹 リンパ節腫脹 脾腫	講義
21	2. 診察・検査・治療	1)診察 問診 身体診察 2)検査 末梢血検査 出血・血栓傾向検査 骨髓穿刺・生検 リンパ節生検 遺伝子検査 3)治療 化学療法 造血幹細胞移植 造血因子投与 輸血療法 感染とその対策	講義
22	3. 主な疾患	赤血球系の疾患 白血球系の疾患 リンパ増殖性疾患 類縁疾患 出血性疾患	講義
23		筆記試験・まとめ(2回目)	
使用テキスト			評価方法
新体系看護学全書:成人看護学[2]呼吸器, メジカルフレンド社 新体系看護学全書:成人看護学[3]循環器, メジカルフレンド社 新体系看護学全書:成人看護学[4]血液・造血器, メジカルフレンド社 新体系看護学全書:成人看護学[8]内分泌・栄養・代謝, メジカルフレンド社			・筆記試験(2回)
			★60点未満は、再試験
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅱ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 歯・口腔器、消化器、代謝疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1.歯・口腔器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2.消化器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3.代謝疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1	【歯・口腔疾患】検討 1. 症状と病態生理 2. 診察・検査・治療 3. 主な疾		1)歯・歯周組織の症状 歯痛 歯肉の出血・排膿・変色 歯の欠損 歯の弛緩・動揺 咬合異常・歯列異常 2)口腔の症状 疼痛・腫脹 開口・閉口障害 咀嚼・嚥下障害 呼吸窓外 言語障害 味覚障害 3)歯と歯肉の診察・検査 4)口腔の診察・検査 口腔内検査 口腔外検査 画像検査 味覚検査 皮膚・粘膜感覚検査 唾液分泌検査 下顎運動検査 咀嚼機能検査 咬合圧検査 5)治療・処置 齲蝕の治療 歯周疾患の治療 口腔外科外来治療 口腔外科入院治療 歯・周組織の疾患 口腔粘膜の疾患 腫瘍 顎骨の外傷 先天異常・発育異常 顎関節疾患		講義
2～4	【消化器疾患】 1. 症状と病態生理		嚥下障害・誤嚥 吃逆 悪心・嘔吐 腹痛 腹部膨満 吐血・下血・血便 下痢 便秘 食欲不振 黄疸 腹水 その他の症状		講義
5～6	2. 診察・検査・治療		1)診察 問診 視診 聴診 打診 触診 直腸指診 2)検査 糞便検査 肝機能検査 膵機能検査 画像 内視鏡検査 肝生検 その他の検査 3)治療 薬物療法 栄養・食事療法 手術療法 放射線療法		講義
7～10	3. 主な疾患		食道疾患 胃・十二指腸疾患 腸・腹膜疾患 急性腹症 肝疾患 胆道疾患 膵疾患 腹部外傷		講義
11～13	【代謝疾患】 1.症候と病態生理		1)高血糖 2) ケトーシス 3)低血糖		講義
	2.検査		1)糖尿病にかかわる検査 ①75g経口ブドウ糖負荷試験 ②ヘモグロビンA1c(HbA1c) ③グリコアルブミン ④1,5-アンヒドログルシトール(1,5-AG) ⑤空腹時血中インスリン値、空腹時血中Cペプチド値、 24時間尿中Cペプチド排泄量 ⑥インスリン抵抗性の指標		

14	3.主な疾患	2)その他の栄養・代謝疾患にかかわる検査 1)糖尿病 2)肥満症・メタボリックシンドローム 3)脂質異常 4)痛風	講義
15		筆記試験・まとめ	
使用テキスト			評価方法
・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[15]-歯・口腔, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[5]-消化器, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[6]-内分泌・代謝, 医学書院			・筆記試験 ★60点未満は、再試験
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅲ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
皮膚、アレルギー・膠原病・感染症、眼、耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】					
1.皮膚疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
2.アレルギー・膠原病・感染症疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
3.眼疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
4.耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					

		直接塗抹標本 培養 同定 薬剤感受性 血清学的診断 分子生物学的診断 病理組織学的方法 免疫血清学的方法 2)治療と予防 化学療法 血清療法 予防接種 1)菌血症・肺血症 2)感染性心内膜炎 3)中枢神経系感染症 4)頭頸部感染症 5)呼吸器感染症 6)消化器系・腹腔内感染症 7)骨盤内感染症 8)皮膚・皮下組織感染症 9)骨・関節感染症 10)性感染症 11)特殊な感染症 12)全身性ウイルス疾患 13)輸入感染症 14)動物・昆虫を介する感染症 15)その他の感染症	
11～12	【眼疾患】 1. 症状と病態生理 2. 検査と治療 3. 疾患の理解	視力障害 視野異常 色覚異常 夜盲 眼精疲労 複視 飛蚊症 変視症 小視症 虹視症 充血 流涙 眼脂 羞明 異物感 掻痒感 眼痛 眼球突出 1)診察と診断の流れ 2)検査 視力検査 屈折検査 眼瞼法 眼瞼反転法 細隙灯顕微鏡検査 眼底検査 眼底画像 検査 眼圧検査 隅角検査 瞳孔検査 3)治療 点眼法 洗眼法 眼帯 注射 涙嚢洗浄・涙管プジー 光凝固 冷凍凝固 屈折矯正 視能矯正 義眼 手術療法 1)機能障害 屈折異常 調節異常 色覚異常 弱視 眼位・眼球運動異常 2)部位別の疾患 眼瞼疾患 結膜疾患 涙器疾患 強膜疾患 ぶどう膜疾患 眼底疾患 水晶体疾患 緑内障 眼球・眼窩疾患 視神経・視路疾患 3)外傷	講義
13～14	【耳鼻咽喉疾患】 1. 症状と病態生理 2. 検査と治療 3. 疾患の理解	1)耳・鼻・咽頭・喉頭の症状と病態生理 1)診察と診断の流れ 2)検査 聴力検査 平衡機能検査 副鼻腔検査 その他 3)治療・処置 耳・鼻・咽頭・喉頭の処置 手術療法 耳・鼻・咽頭疾患	講義
15		筆記試験・まとめ	
使用テキスト		評価方法	
・系統看護学講座：専門Ⅱ－成人看護学[12]－皮膚，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ－成人看護学[11]－アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ－成人看護学[13]－眼，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ－成人看護学[14]－耳鼻咽喉，医学書院		・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅳ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
脳・神経、運動器、精神疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】					
1.脳・神経疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
2.運動器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
3.精神疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する					

15	3. 疾患の理解	(3)リハビリテーション療法 1)統合失調症 2)気分(感情)障害 3)神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 4)精神作用物質関連障害 5)パーソナリティ障害 6)器質性精神障害 7)発達障害 筆記試験・まとめ	
使用テキスト			評価方法
・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[7]-脳・神経, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[10]-運動器, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-精神看護の基礎-精神看護学①, 医学書院			・筆記試験 ★60点未満は、再試験
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅴ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 腎・泌尿器、女性生殖器、小児期、周産期疾病の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1.腎・泌尿器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2.生殖器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3.小児期疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4.周産期疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1～3	【腎・泌尿器疾患】 1. 症状と病態生理	1)尿の異常 2)排尿に関連した症状 3)浮腫 4)水と電解質の異常 5)高血圧 6)循環器系の異常 7)血液の異常 8)尿毒症 9)疼痛(圧痛、仙痛) 10)腫脹・腫瘤 11)性交・生殖障害			講義
4～5	2. 検査と治療	1)診察 問診 視診 触診 2)検査 尿検査 腎機能検査 X線検査 超音波検査 核医学的診断法 磁気共鳴画像法 内視鏡検査 3)治療と処置 薬物療法 手術療法 自己導尿 透析療法 腎移植			講義
6～8	3. 疾患の理解	腎不全 原発性糸球体腎炎 腎障害 間質性腎炎 腎血管性病変 尿管機能異常 尿路・性器の感染症 尿路の通過・機能障害 尿路損傷と異物 尿路結石症 腫瘍 発生・発育異常 男性生殖器疾患			講義
9		筆記試験・まとめ(1回目)			
10～12	【女性生殖器疾患】 1. 症状と病態生理	ショック 出血 帯下 疼痛 発熱 下腹部膨満・腫瘤感 外陰部掻痒感 排尿障害 自律神経障害 不定愁訴			講義
	2. 検査と治療	1)診察・検査 理学的検査(内診 腔鏡診 直腸診子宮ゾンデ診) 病理検査 細菌・ウイルス検査 画像検査 腫瘍マーカー検査 妊娠検査 内視鏡検査 染色体・遺伝子検査 2)治療・処置 腔洗浄 腔タンポン 腹腔穿刺 タグラス窩穿刺 コルポスコピー レーザー治療 避妊 薬物療法 手術療法			
	3. 疾患の理解	性分化異常 外陰疾患 膣疾患 子宮疾患 卵管疾患 卵巣疾患 骨盤内炎症性疾患 乳腺疾患 月経異常・月経随伴症状 更年期障害 不妊症 不育症 感染症			
13～16	【周産期の疾患】 1. 妊娠期の異常	1)妊婦と胎児にみられる異常			講義

	2. 分娩期の異常	2)異常経過のみられる妊婦・胎児 1)産婦にみられる異常 2)異常経過のみられる産婦	講義
	3. 産褥期の異常	1)褥婦にみられる異常 2)異常経過のみられる褥婦	
	4. 新生児の異常	1) 新生児にみられる異常	
17～22	【小児期の疾患】 1.遺伝子・染色体の異常と形態異常	遺伝性疾患 形態異常 染色体異常症 新生児の特徴と疾患	
23	2.小児疾患の病態と治療	1)消化器疾患 2)呼吸器疾患 3)循環器疾患 4)血液疾患・小児がん 5)内分泌・代謝疾患 6)感染症 7)腎・泌尿器疾患 筆記試験・まとめ(2回目)	
使用テキスト			評価方法
・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[8]-腎・泌尿器, 医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[9]-女性生殖器, 医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-母性看護学[2]-母性看護学各論, 医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-小児看護学[2]-小児臨床看護学各論, 医学書院			・筆記試験(2回) ★60点未満は、再試験
参考図書			
・特になし			

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
薬理学			非常勤講師		薬剤師	
					有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標						
【目的】 薬物が生体に及ぼす作用・副作用を理解し、薬物の取扱いと管理方法を学ぶ。						
【目標】 1. 薬物の生体への作用機序について学び、有効性と安全性について理解する 2. 薬物の取り扱い、安全管理について理解する						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
公衆衛生学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康問題と社会背景を理解し、健康問題に対する統計的な知識を学び、健康に関する諸問題を幅広く捉える能力を養う。					
【目標】 1. 人々の健康を保持増進させるための公衆衛生の目的と方法について理解する。 2. 集団の健康状態を把握するための疫学や健康指標について理解する。 3. 人々の生活環境の状況を学習し、看護と公衆衛生の連携を理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1. 公衆衛生の理念	1)公衆衛生の目的とその方法 2)健康の概念と主観的健康感 3)権利とプライマリーヘルスケア			講義
3～4	2. 公衆衛生の技術	1)疫学と健康指標 2)健康づくりを支援する新しい健康教育 3)集団とコミュニティを対象とした政策立案 4)活動計画と実践評価のプロセス			講義
5～7	3.医療の動向と医療保障	1)医療の動向 2)医療保障制度と医療経済			講義
8～10	4. 公衆衛生と国際化	1)公衆衛生と国際化 2)国際協力 3)情報公開と生命倫理			講義
11～12	5. 公衆衛生と地域保健	1)地域保健 2)母子保健 3)学校保健 4)成人・老人保健 5)精神保健 6)難病			講義
13～14	6. 公衆衛生と環境保健	1)生活環境 2)産業保健 3)感染症・危機管理			講義
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-健康支援と社会保障制度[2]-公衆衛生，医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会福祉		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
社会福祉の定義を学び、看護と社会福祉の関連を習得する。					
【目標】					
1. 社会福祉の変遷と社会福祉制度の背景を理解する。					
2. 社会福祉の法制度と実施組織や社会福祉従事者について理解する。					
3. 他国の社会福祉を学び、わが国の社会福祉の特徴を理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1. 社会福祉の基本的性格	1)社会福祉の意味 2)社会福祉をとらえていく立場 3)社会福祉の定義、構造 4)社会福祉における住民参加と社会福祉運動 5)社会福祉と看護との関連			講義
3	2. 生活問題の展開と社会福祉の基本的動向	1)生活問題の展開 2)社会福祉の基本的動向			講義
4	3. 社会福祉制度	1)社会福祉の法制度の発展と法制度 2)社会福祉の財源 3)社会福祉の組織と管理			講義
5～6	4. 社会福祉の分野とサービス	1)障害者福祉(障害者自立支援法) 2)ひとり親家庭の福祉 3)児童福祉 4)生活保護制度 5)その他の福祉			講義
7	5. 社会福祉の形成と現状	1)社会福祉の歴史的特性 2)社会福祉の展開・発展 ①始原としてのイギリス ②急発展のアメリカ			講義
8		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-健康支援と社会保障制度[3]-社会福祉, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会保障		非常勤講師		社会福祉士	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	45時間／2単位／23回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
社会保障の概念と目的、機能を学び、看護の中で社会保障が果たす役割を習得する。					
【目標】					
1. 社会保障の概念や目的・機能について理解する。					
2. 社会保障制度の内容について理解する。					
3. 事例や演習を通して、連携方法や社会福祉援助技術を理解できる。					
4. 福祉サービスにおける関連職種の役割と連携を理解できる。					
講義数	講義内容				教育方法
1～4	1. 社会保障制度	1) 社会保障の概念 2) 社会保障制度の目的、機能、体系 ① 社会保険 ② 公的扶助 ③ 社会福祉 ④ 公衆衛生及び医療 ⑤ 老人保健			講義
5～8	2. 社会保険制度	1) 医療保障 2) 介護保障 3) 所得保障			講義
9～11	3. 社会福祉と医療・看護連携をめぐる課題	1) 社会福祉実践の特質 2) 社会福祉実践の基本的枠組み 3) 基底となる要素 4) 社会福祉実践の検討課題 5) 医療・看護連携の重要性 6) 連携をめぐる課題			講義
12		筆記試験・まとめ			
13～15	4. 社会福祉援助技術	1) 医療ソーシャルワーク業務 2) 直接援助技術 3) 間接援助技術			講義
16～17	5. 関連職種の連携	1) 社会福祉と医療・看護の連携の実際 ① 関連職種の理解 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、臨床心理士、精神保健福祉士 など ② 医療サービスから福祉サービスへの移行 ③ 関連職連携の実践例(演習)			講義
18～21					演習
22～23		発表・まとめ(2回目)			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[3]－社会福祉，医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・北島政樹：医療福祉をつなぐ関連職種連携，南江堂					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護関係法令		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
看護活動を行うための基盤となる法令及び関連する法について学ぶ。					
【目標】					
1. 看護に必要な関係法令の意義を理解する。					
2. 看護専門職としての責任を理解する。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
現代医療論		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
医療の変化と健康問題・疾病予防について理解を深め、望ましい医療者・看護師像について学ぶ。また、地域医療活動とその意義について学ぶ。					
【目標】					
1.医療の変化と健康問題、疾病予防の意義について学ぶ。					
2.医療を受ける患者を理解し、医療・看護の職業倫理について学ぶ					
3.医療制度、医療サービスについて知り、現代医療の問題を理解する。					
4.地域とともにある医療活動について理解でき、将来の医療を担う看護の役割を考えることができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.医学・医療のあゆみ	1)人類の誕生と文化の発達 2)古代の医学・中世の医学 3)近代医学の基礎と臨床医学の近代化 4)近代医学に発展・現代医療の基盤 5)今後の医学・医療の方向			講義
2	2.健康と疾病	1)健康の概念 2)疾病 3)生活と健康			講義
3	3.医学と医療	1)医学と医療 2)現代医療の本質 3)医療の実際			講義
4～5	4.わが国の医療供給体制	1)医療供給体制の現状と整備の経過 2)医療関係者の現況と養成の実態 3)医療保障の現状と課題			講義
6	5.地域医療	1)地域医療の現状と役割 2)地域保健活動のあり方と生活			講義
7	6.現代医療における諸問題	1)医療の進歩と医の倫理 2)医療における患者の権利 3)病状(真実)告知 4)脳死と臓器移植 5)死と生命保持、死を共有する			講義
8		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・現代医療論, メディカルフレンド社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向2015/2016					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学概論				専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回				講義	
講義の目的と目標							
【目的】							
看護の概念を捉え、看護の位置づけ・専門性について学ぶ。また、看護の対象としての人間の捉え方を明らかにし、看護の機能と役割の重要性が認識できる。							
【目標】							
1. 看護の概念や理念などが歴史的推移の中でどのように変化してきたかを理解する。							
2. 人間の健康や環境が人々の生活や生き方に影響することを理解する。							
3. 看護の対象である人間の特徴や生活者としての人間を理解する。							
4. 看護活動の概要を理解する。							
5. 看護における看護倫理について理解する。							
6. 看護の専門性について理解する。							
7. 看護の構成要素について理解できる。							
講義数	講義内容						教育方法
1～3	1.看護とは		1)自分が考えている「看護」とは 2)看護の本質 3)看護の役割と機能 4)看護の継続性と連携				講義
4～5	2.看護の対象の理解		1)人間の「こころ」と「からだ」を知る 2)生涯発達しつづける存在としての人間 3)人間の「暮らし」の理解 4)看護の対象としての家族・集団・地域				講義
6	3.国民の健康状態と生活		1)健康のとらえ方 2)国民の健康状態 3)国民のライフサイクル				講義
7	4.看護の提供者		1)職業としての看護 2)看護職の資格・養成制度・就業状況 3)看護職者の継続教育とキャリア開発 4)看護職の養成制度の課題				講義
8～9	5.看護における倫理		1)現代社会と倫理 2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3)看護実践における倫理問題への取り組み				講義
10～11	6.看護理論と主要概念		1)看護理論とは 2)看護理論からみる看護 3)ケアリング 4)看護の構成要素の理解 ①人間 ②健康 ③環境 ④看護				講義
12～13	7.看護の提供のしくみ		1)サービスとしての看護 2)サービス提供の場 3)看護サービスの管理				講義
14	8.広がる看護の活動領域		1)国際化と看護 2)災害時における看護				講義
使用テキスト						評価方法	
・系統看護講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 ・フローレンスナイチンゲール:看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会						・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書							

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅰ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
看護を实践するための基礎となる技術の概念について理解し、安全・安楽な看護行為に共通する基本技術を習得する。					
【目標】					
1. 看護における技術の概念及び看護技術の基本原則について理解する。					
2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を理解し活用方法の実際を学ぶ。					
3. 看護における観察・記録・報告の目的と重要性について理解できる。					
4. 看護における安全を守る技術の意義や方法について理解する。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 対象の健康生活を保持するために、環境調整の援助技術、活動と休息への援助、食事の援助などの日常生活援助技術を習得する。					
【目標】 1. 患者にとっての環境を理解し、環境調整の援助技術を習得する 2. 患者への活動と休息への援助の意義や基本の方法について理解する 3. 患者にとっての食事の意義を理解し、援助技術の基礎的能力を身につける					
講義数	講義内容				教育方法
1～2 3～4	1.環境調整の援助	1)環境と人間との関わり 2)環境調整の意義 3)病院における生活環境と環境調整 4)環境整備の実際 ・環境調整・安全な療養環境の整備 ・臥床患者のシーツ交換			講義 演習
5～7 8～9	2. 活動と休息への援助	1)健康における活動・休息の意義 2)活動と休息に影響する要因とアセスメント 3)廃用症候群とその予防 4)よい姿勢とボディメカニクス ・基本体位と良肢位・ボディメカニクスの原則 5)体位の種類と特徴 6)活動と休息への援助の実際 ・体位変換と保持、ポジショニング ・車椅子での移送・移動介助・移乗介助 ・ストレッチャー移乗、褥瘡予防ケア ・安全な体位の調整・関節可動域訓練 ・適切な睡眠への援助			講義 演習
10～12 13～14	3. 栄養と食事の援助	1)人間にとっての食事とは 2)栄養と食事に関するアセスメント視点 3)食事援助の原則 4)食事の援助方法 ・座位、臥床患者の食事援助、食事介助 ・口腔ケア・義歯の取扱い			講義 演習
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護がみえるvol.1,基礎看護技術,メディックメディア ・系統看護講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論, 医学書院				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅲ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
対象の健康生活を保持するために、清潔・衣生活への援助及び、排泄の援助などの日常生活援助技術を習得する。					
【目標】					
1.患者にとっての清潔・衣生活の意義を理解し、援助技術の基礎的能力を身につける					
2.患者にとっての排泄の意義を理解し、援助技術の基礎的能力を身につける					
講義数	講義内容				教育方法
1～4 5～8	1.清潔・衣生活への援助	1)健康生活における清潔・衣生活の意義 2)清潔・衣生活に影響する要因とアセスメント 3)身体の清潔のための援助方法 ・入浴とシャワー浴の介助・清拭・洗髪 ・手浴、足浴・整容 4)衣生活の援助方法 ・衣服着脱への援助 ・片麻痺患者・点滴がある患者の寝衣交換			講義 演習
9～11 12～14	2. 排泄の援助	1)排泄及び排泄行動の意義と重要性 2)排泄援助に必要な知識 3)排泄のアセスメント視点 4)阻害因子と援助の判断 5)排泄援助の原則・注意事項 ・排泄援助、尿器・便器の使用 方法 ・清潔の援助(陰部の保清)			講義 演習
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護がみえるvol.1,基礎看護技術,メディックメディア ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 ・看護学生お役立ちカード, 照林社				・筆記試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅳ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
看護におけるバイタルサイン測定・フィジカルアセスメント及び身体計測の技術を習得し、臨床判断の基礎的概念を学ぶ。					
【目標】					
1. バイタルサインの測定方法を習得し、測定値の意味が分かる					
2. 系統別のフィジカルイグザミネーションが正確に実施でき、正常と異常が理解できる。					
</					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅴ			非常勤講師・専任教員			看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
1年次／後期		45時間／2単位／23回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
診療に伴う看護の役割と援助方法を学ぶ。検査時の看護、薬物療法と看護さらに健康障害を持つ対象に対し経過別・症状別・治療処置別等に応じた基礎的知識及びその援助方法を学ぶ。							
【目標】							
1. 検査の意義や安心して検査を受けるための看護の役割を理解する。							
2. 薬物取り扱い上の法的責任を理解し、与薬の意義や方法を習得する。							
3. さまざまな健康レベルにある対象の特徴を理解し看護の機能と役割を学ぶ。							
4. 健康障害にある対象の主な症状の基礎知識を理解し援助方法を学ぶ。							
5. 対象に行なわれる治療・処置の原理・原則を理解し看護援助の実際を学ぶ。							

使用テキスト		評価方法	
・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ, 医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学④臨床看護総論, 第6版, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護がみえるvol.1 基礎看護技術, メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護がみえるvol.2 臨床看護技術, メディックメディア		・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅵ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
看護過程にそって看護の実践を行うことの意義と重要性が理解でき、教育的関わりの方法および具体的展開の方法を学ぶ。					
【目標】					
1.看護過程の意義を理解できる。					
2.看護過程の構成要素とプロセスを理解する。					
3.学習支援の対象、過程及び方法を理解する。					
4.紙上事例を使い対象の日常生活過程を整えるための看護過程が展開できる。					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅶ			専任教員			看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】 健康障害を持つ対象に対し経過別・症状別・治療処置別等に応じた基礎的知識及び侵襲のある援助方法を学ぶ。							
【目標】 1. 侵襲を伴う看護援助の実践を学ぶ。 2. 健康障害にある対象の主な症状の基礎知識を理解し援助方法を学ぶ。 3. 対象に行われる治療・処置の原理・原則を理解し看護援助の実践を学ぶ。 4. 医療用機器を安全、効果的に取り扱うための原則を知り機器と共存する対象への援助方法を学ぶ。 5. 脳神経系のフィジカルイグザミネーションが正確に実施でき、正常と異常が理解できる。							
講義数	講義内容						教育方法
1 2～3	1.侵襲を伴う排泄の援助	1)導尿 ・一時的導尿・持続的導尿 ・膀胱留置カテーテルの管理 ・導尿または膀胱留置カテーテルの挿入 2)浣腸					講義 演習
4 5～6	2.臨床判断の基礎	1)臨床判断の理論 2)臨床判断の実践					講義 演習
7～8 9～10	3.侵襲を伴う呼吸器障害を持つ患者の看護	1)排痰ケア ・咳嗽介助、ハフニング ・ネブライザーを用いた気道内加湿 ・口腔鼻腔内吸引、気管内吸引、体位ドレナージ					講義 演習
11 12	4.放射線療法と看護	放射線療法と看護 ・看護に必要な基礎知識 ・放射線療法が必要な患者への援助 ・放射線被ばく防止策の実施 筆記試験・まとめ(1回目)					講義 演習
13	5.医療機器の原理と実際	1)医療機器の原理と実際					講義
14 15～16	6.採血の技術	1)静脈血採血 ・検体の取り扱い ・針刺し事故の防止・事故後の対応 ・静脈採血の実践 2)動脈血採血 3)血糖測定					講義 演習
17～18 19～22	7.薬物療法と看護 (注射法)	1)注射実施にともなう危険性、法的責任 2)安全な注射実施の方法 ・皮下注射、皮内注射、筋肉内注射 ・静脈内注射、点滴静脈内注射 ・静脈路確保 ・点滴静脈内注射の管理、薬剤等の管理 ・人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策					講義 演習
使用テキスト						評価方法	
・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ,Ⅱ,医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護がみえるvol.2,臨床看護技術,メディックメディア						・筆記試験(2回) ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書							

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅶ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
事例研究に必要な基本的な知識、技術及び態度について学ぶ。実践してきた看護について事例研究を通して、科学的根拠や看護理論と照らし合わせ、論文としてまとめることにより自己の看護観を深め、よりよい看護実践が追究できる知識・技術・態度を養う。					
【目標】					
1. 事例研究の方法及びプロセスを理解できる。					
2. 研究に必要な基本的な知識、技術及び態度を身につけることができる。					
3. 実践した看護を客観的・科学的・論理的に捉え論文としてまとめることができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.看護における研究	1) 看護実践と理論の統合 ・看護実践と理論と研究の関連性 2) 看護実践と研究 ・根拠に基づく実践、根拠の活用 ・研究－根拠－実践のサイクル 3) 研究の種類 ・質的研究（事例研究） ・量的研究			講義
2	2.事例研究のプロセス	1) 研究計画書の作成 ・研究テーマの選定 ・研究の背景 ・意義や目的の明確化 ・研究方法（情報収集、分析方法） ・倫理的配慮 ・タイムスケジュール 2) 文献検索 ・文献の読み方及び整理 ・文献検索、コンピュータ検索			講義
3	3. 事例研究の実際	3) 考察 ・理論や文献の活用			講義
4		4) 発表方法			講義
5		1) 卒業論文の構成 ・テーマ、研究期間、諸言、事例紹介、 看護の展開、考察、結語、文献			講義
6		2) 卒業論文の作成 ・研究計画書 ・論文 ・抄録集 ・発表原稿			演習
7		3) 卒業論文発表会			演習
8					
9～11					
12～15					
使用テキスト				評価方法	
・李節子：看護研究こころ手帳 第3版，医歯薬出版.				・論文・発表	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護概論		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
在宅看護の歴史的変遷を踏まえ、在宅看護の理念と対象・場を理解し、在宅看護の役割・機能を学ぶ。					
【目標】					
1. 社会のニーズにともなう在宅ケア制度の変遷が理解できる。					
2. 地域で療養する対象者とその家族のニーズが理解できる。					
3. 在宅看護の意義と必要性が理解できる。					
4. 在宅看護に関わる職種と連携の必要性について理解できる。					
5. 保健医療福祉サービスを提供するチームの一員として、看護者の役割・機能が理解できる。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1. 在宅看護の概念	1) 地域療養を支える看護 (1) 在宅看護とは (2) 個人を対象とする在宅看護 (3) 集団を対象とする公衆衛生看護 2) 日本の在宅看護の歴史と現状 (1) 日本の在宅看護の変遷と社会背景 (2) 在宅看護が必要とされる社会背景 3) 在宅ケアと在宅看護 (1) 在宅チームケアの意義 (2) 在宅ケアの目的 (3) 在宅ケアにおける看護の特徴 (4) 継続看護の視点 (5) 在宅ケアチームにおける看護職の役割			講義
3～5	2. 在宅療養者と家族の支援	1) 在宅療養を必要とする人たち 2) 在宅療養の成立要件 (1) 本人が在宅療養を希望していること (2) 家族に在宅療養を受け入れる意思があること (3) 療養できる居住環境が整備されていること (4) 地域に医療・看護の提供機関があること (5) 地域に在宅ケアシステムが整っていること (6) 在宅療養をコーディネートする介護支援専門員が身近にいること 3) 在宅療養者への看護活動 (1) 健康管理 (2) 日常生活行動の自立支援 (3) 病状・病態の予測と予防 (4) 療養上のリスクマネジメント 4) 在宅看護と家族 (1) 家族とは(レポート: 自分の家族観) (2) 家族と看護 5) 家族介護者の個別性に応じた支援 (1) 家族による介護の状態 (2) 介護負担に影響する要因 (3) 介護によって家族にもたらされる影響 (4) 介護力に応じた家族支援			講義
6～7	3. 在宅ケアの連携とマネジメント	1) 在宅ケアとケアマネジメント 2) 在宅ケアにおける関係機関・関係職種との連携・協働 3) 地域包括ケアシステムと在宅ケア			講義
8		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・(新)地域・在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版				・筆記試験 ・課題レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・系統看護学講座: 在宅看護論 医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		20時間／1単位／10回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
・暮らしの場や、活動の場などのフィールドに出向き、探求心を持って主体的に地域住民と関わりを持ち、地域の課題を考えることが出来る。					
・自助・互助・共助・公助の繋がりを学ぶ。					
【目標】					
1. 対象を生活者として捉え、その人らしい生活を理解できる。					
2. 多職種との連携・協働について理解できる。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅱ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	15時間／1単位／8回			演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
疾病や障がいの有無にかかわらず、地域で暮らし、多様な場で活動(社会参加)することが、生きること・健康に影響を与えることを理解する。					
【目標】					
1. 対象を生活者として捉え、その人らしい生活を理解できる。					
2. 看護の役割を理解し、多様な場で多職種と連携・協働しチームの一員として行動できる。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅲ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
在宅看護に必要な看護援助を学び、対象の抱えるニーズを把握し、セルフケア能力を高めるための支援と生活の質（QOL）の維持・向上に向けての支援方法を学ぶ。					
【目標】					
1. 在宅看護を支える訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任及び訪問看護師の役割を理解する。					
2. 対象の日常生活と家族支援の視点に基づいた支援活動が理解できる。					
3. 訪問看護に必要な基礎的な看護技術について理解できる。					
4. 対象に応じた日常生活援助の援助技術の工夫が考えられる。					
5. 療養者の生活の場において看護を提供する者としての態度を養う。					

23	9)ストマ管理 10)疼痛緩和 筆記試験・まとめ(2回目)	
使用テキスト		評価方法
・地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版		・筆記試験 ・課題レポート ★60点未満は、再試験
参考図書		
・系統看護学講座:在宅看護論 医学書院		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅳ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 事例を通して看護過程を学び、個別的な在宅ケア支援のための保健・医療・福祉のネットワークの活用方法・継続看護の方法を学ぶ。					
【目標】 1. 訪問看護に関連する社会資源を理解し、それに関わる職種と連携の必要性について理解できる。 2. 紙上事例における看護過程の展開を通し、訪問看護の展開のプロセスが理解できる。 3. 個々の対象の特性、在宅ケア支援のための継続看護の方法が理解できる。 4. シミュレーション学習を通し、在宅看護における基礎的知識・技術・倫理的態度の統合ができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1.在宅ケアを支える制度と社会資源	1)社会資源の活用 ①在宅ケアを支える医療保険制度 ②高齢者を支える制度と社会資源 ③障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 ④在宅難病療養者を支える制度と社会資源 ⑤子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 ⑥産後うつを抱える方の支援制度と社会資源 ⑦在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源			講義
3～4	2.在宅における看護過程	1)在宅での看護過程の特徴 (1)在宅と看護過程 ①在宅看護過程とは ②在宅看護過程の特質 (2)在宅での看護過程展開の視点 ①在宅ケアの理由確認と対象把握 ②問題解決のためのデータを含む情報収集 ③継続看護のための体制づくり ④初回訪問の実際 ⑤看護アセスメント ⑥支援目的の共有化 ⑦在宅看護計画の立案 ⑧訪問看護の実施 ⑨ケア及び看護計画の評価 ⑩訪問の終結 ⑪在宅看護実践の価値評価			講義
5～12	3. 看護の実際	1)事例を用いた看護過程の実際			演習
13～15		2)地域・在宅看護論実習での臨床判断の実際 (1) 小児、ALS、精神疾患、終末期の療養者及び家族とのコミュニケーションの場面			演習
使用テキスト				評価方法	
・地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版				・課題レポート ・シミュレーション評価	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
健康支援と看護				非常勤講師・専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
基礎看護学で既習した個人への学習支援技術を土台に、健康行動モデルやライフステージ各期における健康上の課題および学習支援の特徴を学び、個人・集団への健康学習支援実践能力を高める。							
【目標】							
1. 健康学習支援における看護師の役割について述べることができる。							
2. 代表的な健康行動モデルについて述べることができる。							
3. 行動変容に影響する要因および行動変容ステージ別支援方法について述べることができる。							
4. ライフステージ各期の健康課題と健康を守る法律・施策について述べることができる。							
5. ライフステージ各期における学習支援の特徴を述べることができる。							
6. 学習支援の基礎理論・行動変容ステージモデルを活用し、対象が健康課題解決に向け行動変容できるような個別健康支援・集団健康支援の工夫ができる。							
講義数	講義内容						教育方法
1	1. 健康学習支援	1) 健康学習支援とは 2) 社会の変化と保健に関わる意義 3) 健康学習支援の必要性と看護師の役割				講義	
2	2. 健康教育の変遷と基礎理論	1) 健康教育の変遷と基礎理論 (1) KAPモデル (2) ヘルスビリーフモデル (3) トランスセオレティカルモデル (4) プリシード・プロシードモデル 2) エンパワメント 3) 自己効力理論 4) 行動変容に影響する要因 5) 行動変容ステージ別支援方法				講義	
3	3. ライフステージにおける健康課題と学習支援	1) ライフステージにおける健康課題と学習支援				講義	
4		(1) 小児：プレパレーションの概念				講義	
5		(2) 成人期：成人各期の健康課題と保健・医療・福祉施策 働く人の健康課題と管理：産業保健				講義	
6		(3) 老年期：高齢者の健康を守る施策				講義	
7	4. エンパワメントエデュケーション (理論を活用した健康学習支援の実践)	(4) 女性のライフステージ各期における健康課題と学習支援				講義	
8～9		(5) 精神(心)の健康のための学習支援				講義	
10～14		1) エンパワメントエデュケーション (理論を活用した健康学習支援の実践) (1) 個別的健康学習支援(グループワーク・ロールプレイ) (2) 集団的健康学習支援(グループワーク・ロールプレイ) まとめ				演習 演習	
15		筆記試験・まとめ					
使用テキスト						評価方法	
						・筆記試験 ・グループワークレポート	
						★60点未満は、再試験	
参考図書							
各領域の看護学概論で使用した教科書 別冊ヘルスプロモーション(メヂカルフレンド社)							

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
薬物療法と看護		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
薬物療法の基本的知識を踏まえ、特別な薬物の管理や看護の実際、各発達段階の対象特性に応じた薬物療法を学ぶ。					
【目標】					
1. 輸血療法、抗がん剤治療における看護の実際を説明できる。					
2. 特別な管理を要する薬剤の管理の実際を説明できる。					
3. 薬物動態を踏まえ、各発達段階の対象特性に応じた薬物療法の看護の実際を説明できる。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1. 薬物療法における看護の役割	1)薬物療法における看護の役割 (1)正しい与薬 (2)薬の管理			講義
2	2. 輸血療法・抗がん剤治療における看護	1)輸血療法における看護			講義・演習
3		2)血液製剤の管理の実際 3)抗がん剤治療における看護 ①暴露予防と看護 ②援助の基礎知識と実際、副作用の観察 4)抗悪性腫瘍薬の管理の実際			講義・演習
4	3. 特別な管理を要する薬剤の管理	1)インスリン療法と看護 2)ステロイドパルス療法と看護			講義
5	4. 薬物療法における妊産婦の対象特性と看護	1)薬物療法における妊産婦の対象特性と看護			講義
6	5. 薬物療法における小児期の対象特性と看護	1)薬物療法における小児期の対象特性と看護			講義
7～9		2)小児看護技術演習 ・シーネ固定(足・手) ・輸液管理			演習
10	6. 薬物療法におけ老年期の対象特性と看護	1)薬物療法における老年期の対象特性と看護 (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)高齢者に特徴的な薬物有害事象 (3)老年症候群 (4)薬物療法における援助			講義
11～12	7. 精神科薬物療法の看護	1)精神科薬物療法の看護 (1)精神科薬物療法とは (2)精神科薬物療法における看護の役割 (3)薬物療法の実際 (4)患者にとって向精神薬の服用はどのような意味をもつか？			講義
13	8. 自己管理が困難な患者・療養者の服薬の看護	1)障害をもつ人のセルフマネジメント (1)セルフマネジメントの背景 (2)セルフマネジメントのための疾病教育 (3)服薬自己管理			講義
14	9. 薬物療法を行なっている患者の看護	1)薬物療法を行なっている患者の看護			講義・演習
使用テキスト				評価方法	
・新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学 メヂカルフレンド社 ・薬がみえる(Vol. 4)薬力学／薬物動態学／相互作用／製剤学／薬剤の使用と実務薬物が見えるメディックメディア, 2020.				・筆記試験 ・演習	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
周手術期と看護				非常勤講師・専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／後期		30時間／1単位／15回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
周手術期における生体反応、発達段階による身体的・精神的・社会的な影響を踏まえた周術期の看護の実際を学ぶ。							
【目標】							
1.周術期にある対象とその家族の三側面(身体的・精神的・社会的)にもたらす影響を説明できる。							
2.麻酔侵襲及び手術侵襲が生体に及ぼす影響(生体反応)について説明できる。							
3.術後合併症のアセスメントや予防するための看護実践を説明できる。							
4.各発達段階における周術期看護の特徴を説明できる。							
5.術後合併症を予防する看護の実際を、シミュレーションを通して修得することができる。							
6.手術により対象及び家族の生活やボディーイメージにどのような影響を及ぼすのかを考え、看護の実際を説明することができる。							

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
終末期と看護				非常勤講師・専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／後期		20時間／1単位／10回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
死を迎えつつある人に必要な症状のコントロールや家族のケアについて学習する。また、多様な場においての緩和ケアおよび悲嘆とそのプロセスに応じた援助、ならびにグリーフケアについて学習し、自己の死生観を養う。							
【目標】							
1. 終末期にある人の身体的・精神的・社会的・霊的反応の特徴について学び、説明できる。							
2. 終末期の意味と現状・課題・倫理的課題について説明できる。							
3. 終末期にある人と家族の特徴・家族の死のとりえ方について説明できる。							
4. 終末期にある人の緩和ケアについて説明できる。							
5. 終末期にある人の死の徴候と看護が説明できる。							
6. 看取りとグリーフケアの実践について説明できる。							
7. 各発達段階（小児・成人・老年）の終末期ケアについて特徴がわかる。							
8. 多様な場における終末期ケアについて実践を通して学び、死生観を深めることが出来る。							
講義数	講義内容						教育方法
1	1. 終末期の定義と概念		1) 終末期とは (1) 終末期看護の概念と特徴 ・WHOの終末期の定義 ・全人的苦痛 (2) 終末期医療の現状と課題 ・ホスピスケア ・緩和ケア (3) 終末期における倫理的課題 (4) インフォームドコンセント (5) 死にゆく人の心理過程 ・キューブラーロス				講義
2	2. 終末期にある患者・家族の生活の援助		1)終末期にある患者の援助 (1) ターミナルケア (2) リラクゼーション(補完代替療法) (3) 看取り ・危篤時、臨死時のケア、死の受容 ・多職種との看取りのサポート 2)終末期患者の家族への援助 (1) 家族ケア (2) エンゼルケア (3) 事前指示(リビングウィル)				講義
3	3.発達段階における終末期の看護		1)老年期における終末期の看護 (1)「生ききる」ことを支えるケア ・日本人の死生観、死の準備状況 (2) 意思決定支援 ・高齢者の尊厳、「人生の最終段階における医療」 (3) アドバンスケアプランニング AD、DNAR 2)高齢者の終末期にある療養者の看護 (1)看取りの場の推移(多様な場) (2)終末期における保健医療福祉チームと看護職の役割 3)成人期における終末期の看護 (1)終末期にある成人の健康問題をめぐる状況 (2)終末期にある人の看護 ・終末に対する意識、除痛ケア、麻薬について ・症状マネージメント (3)家族への支援:大切な人を失う悲しみを支える ・家族のストレス、家族の意識 (4)死を考える-最期まで自分らしく生きるために 4)周産期における終末期の看護 (1)人工妊娠中絶と看護 (2)児を亡くした褥婦・家族への看護 ・グリーフケア				講義
4			3)成人期における終末期の看護 (1)終末期にある成人の健康問題をめぐる状況 (2)終末期にある人の看護 ・終末に対する意識、除痛ケア、麻薬について ・症状マネージメント (3)家族への支援:大切な人を失う悲しみを支える ・家族のストレス、家族の意識 (4)死を考える-最期まで自分らしく生きるために 4)周産期における終末期の看護 (1)人工妊娠中絶と看護 (2)児を亡くした褥婦・家族への看護 ・グリーフケア				講義
5			4)周産期における終末期の看護 (1)人工妊娠中絶と看護 (2)児を亡くした褥婦・家族への看護 ・グリーフケア				講義
6			5)終末期における子どもと家族の看護 (1)小児の死の概念 (2)終末期における小児の心理				講義

7～9	4. 終末期看護の展開	(3)小児の終末期における家族の心理 (4)終末期の小児の緩和ケアと死にゆく小児の家族への援助 ・チームアプローチ 1)終末期看護の実践(グループワーク・シミュレーション) (1)病院における終末期看護 (2)保健医療福祉チームと看護職の役割 (3)死生観についてのレポート作成 筆記試験	演習
10			
使用テキスト			評価方法
			・筆記試験 ・課題レポート ★60点未満は、再試験
参考図書			
・看護学テキスト がん看護 様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える 南江堂 ・緩和ケア 尊厳ある生と死、大切な生活をつなぐ技と心 南江堂			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
臨床判断と看護				非常勤講師・専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】 これまでの学習内容を統合し、臨床の場の現象にひもづけて考える経験を通して、臨床判断の基礎的能力を身につける。看護実践につながる見方、考え方を学ぶ。							
【目標】 1. 既習の知識を統合し、対象の状態や環境の変化に気づくことができる。 2. 気づきをアセスメントにつなげ、解釈することができる。 3. 解釈を元に、次の看護実践を考え、実践することができる。 4. 適切なリフレクションを行うことができる。							
講義数	講義内容						教育方法
1～3 4～6 7～9 10～12 13～15	1.臨床判断とは	1)臨床判断とは 2)Tannerの臨床判断モデル 「気づく」「解釈」「反応」「省察」 3)ガイダンス 単元2～6は、各実習前週にグループ単位で実施 事前課題					講義
	2.成人看護学実習での臨床判断の 実際	1)術後患者の全身状態の観察場面 術後1日目の合併症の観察とその対応 ・術後生体反応・水分出納					演習
	3.老年看護学実習での臨床判断の 実際	1)回復期患者の日常生活援助の場面 転倒リスクのある患者へのトイレ介助 ・加齢による身体的変化					演習
	4.精神看護学実習での臨床判断の 実際	1)統合失調患者とのコミュニケーションの場面 精神症状出現時の患者への対応 ・治療的関わり					演習
	5.母性看護学実習での臨床判断の 実際	1)産褥患者の観察場面 産褥1日目の進行性変化と退行性変化の観察					演習
	6.小児看護学実習での臨床判断の 実際	1)小児患者のフィジカルアセスメントとバイタルサイン測定と 身体計測の場面 ・呼吸音と心音					演習
使用テキスト						評価方法	
						・シミュレーション(各領域)	
						★60点未満は、再試験	
参考図書							
・看護学生のための臨床判断に必要な臨床推論 道又元裕(監修)ヴェクソンインターナショナル株式会社 ・アセスメントに自信がつく臨床推論入門:看護の臨床判断能力を高める推論トレーニング 小澤 知子(著, 編集)メディカ出版 ・実践につよくなる 看護の臨床推論:ケアを決めるプロセスと根拠 石松伸一(監修)学研メディカル秀潤社							

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学概論		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		20時間／1単位／10回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
成人看護学の概念と成人期の特徴と対象を理解し、成人期の保健・医療・福祉の動向と課題、倫理と看護者の役割について学ぶ。					
【目標】					
1.成人看護学の概念と成人期の特徴を理解する。					
2.成人期にある人の健康問題について理解し、あらゆる健康レベルに応じた援助方法を理解する。					
3.成人期にある人の基本的な看護援助について理解する。					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅰ			非常勤講師・専任教員			看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】 急激な身体侵襲で生命の危機状態にある対象の特徴を理解すると共に回復を促進する援助について学ぶ。							
【目標】 1.循環機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 2.呼吸機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 3.消化機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 4.クリティカルケア看護の特徴と看護の役割を理解する。							
講義数	講義内容						教育方法
1～3	1.循環機能障害をもつ対象の看護		1)循環機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1)循環機能障害が対象に及ぼす影響 (身体的問題・心理的問題・社会的問題) 2)疾患をもつ対象の看護 (各疾患の症状・検査・治療・処置を含む) (1)虚血性心疾患 (2)心不全 (3)不整脈・弁膜症 主要症状:胸痛、動悸、ショック、呼吸困難、NYHA 心機能分類 検査:心電図、胸部レントゲン検査、心エコー 検査、血行動態モニタリング、CT・MRI検査 治療・処置:薬物療法、心臓カテーテル治療、 ペースメーカー、ICD、開胸手術・ 冠動脈バイパス術・弁置換術・血栓除去術				講義
4			3)十二誘導心電図検査				演習
5～7	2.呼吸機能障害をもつ対象の看護		1)呼吸機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1)身体的問題・心理的問題・社会的問題 2)疾患を持つ対象の看護 (各疾患の症状・検査・治療・処置を含む) (1)肺炎 (2)慢性閉塞性肺疾患 (3)気胸 (4)肺癌 主要症状:咳、痰、咯血、呼吸困難、チアノーゼ 検査:喀痰検査、胸水検査、生検、気管支鏡検査、 動脈血ガス分析、肺機能検査 治療・処置:吸入療法、呼吸理学療法、胸腔ドレナージ、 人工呼吸器				講義
8			3)胸腔ドレナージ、人工呼吸器を装着している患者の看護				演習
9～11	3.消化機能障害をもつ対象の看護		1)消化機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1)身体的問題・心理的問題・社会的問題 2)疾患を持つ対象の看護 (各疾患の症状・検査・治療・処置を含む) (1)食道癌、胃癌 (2)大腸・直腸癌・人工肛門造設 (3)胆のう炎・胆石症、膵炎、肝癌 主要症状:悪心・嘔吐、腹痛、吐血、下血、便秘食欲不振、 黄疸、体重減少 検査:造影検査、内視鏡検査 治療・処置:食事療法、経腸栄養、手術療法				講義
12～13	4.クリティカルケア看護		1)救命救急室における看護の役割 (1)救急医療体制と救急医療及び看護の特徴 (2)救命救急法(二次救急)				講義・演習

14		2)集中治療室における看護の役割	講義
15		筆記試験・まとめ	
使用テキスト			評価方法
・新体系 看護学全書経過別成人看護学② 周術期看護 メジカルフレンド社 ・周術期看護学習ワークブック メジカルフレンド社			・筆記試験 ★60点未満は、再試験
参考図書			
・新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論成人保健 メジカルフレンド社 ・系統看護学講座:成人看護学[2] [3] [5], 医学書院			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅱ			非常勤講師・専任教員			看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
生涯にわたり疾病の自己管理を必要とする対象の看護、対象とその家族が健康障害を受容する過程やセルフケアを高める援助の方法を学ぶ。							
【目標】							
1.内分泌・代謝機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。							
2.血液・造血器障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。							
3.免疫・感染機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。							
4.腎・泌尿器機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。							

15	(1)身体的問題 (2)心理・社会的問題 2)症状に対する看護 (1)排尿障害 (2)浮腫 (3)高血圧 3)検査を受ける対象の看護 (1)尿検査 (2)腎生検 (3)造影検査 4)治療・処置を受ける対象の看護 (1)透析療法を受ける対象の看護 (2)カテーテル留置を受ける対象の看護 (3)腎移植を受ける対象の看護 5)疾患をもつ対象の看護 (1)腎不全 (2)腎炎 (3)腎・尿路結石 (4)前立腺肥大症 (5)前立腺癌・膀胱癌 筆記試験・まとめ	
使用テキスト		評価方法
・系統看護学講座:成人看護学[4][6][8][11], 医学書院		・筆記試験
		★60点未満は、再試験
参考図書		
・特になし		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅲ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
回復過程において障害への適応と社会復帰を目指す対象への看護を理解する。					
【目標】					
1.脳神経機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					
2.運動機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					
3.生殖機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					

13～14	3. 生殖機能障害をもつ対象の看護	1)生殖機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1)身体的問題 (2)心理・社会的問題 2)症状に対する看護 (1)性器出血 (2)疼痛 (3)帯下 3)検査を受ける対象の看護 (1)内診 (2)病理検査 4)疾患をもつ対象の看護 (1)子宮がん (2)乳がん (3)男性不妊症 筆記試験・まとめ	講義
15			
使用テキスト			評価方法
・系統看護学講座:成人看護学[7][8][9][10], 医学書院			・筆記試験
			★60点未満は、再試験
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅳ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 紙上事例による看護過程の展開を通して、健康障害をきたした成人への看護を実践するための具体的な看護実践能力を身につける。					
【目標】 1.成人期にある患者の全体像の捉え方、アセスメントの方法を理解する。 2.問題解決的アプローチの展開方法を身につける。 3.教育的関わり(学習支援)の指導媒体を作成することができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1 2～7	1.慢性期看護過程	1)慢性期看護過程ガイダンス (1)慢性期看護過程の展開の視点 (2)PES方式について (3)問題解決的アプローチについて (4)全体関連図について (5)教育的関わり(学習支援)・指導媒体について 2)個人ワーク 3)グループワーク 4)看護過程発表・まとめ			講義 演習
8 9～15	2.急性期看護過程	1)急性期看護過程ガイダンス (1)急性期看護過程の展開の視点 (2)経過観察記録用紙、24時間経過表 (3)退院支援 2)個人ワーク 3)グループワーク 4)看護過程発表・まとめ			講義 演習
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：成人看護学[4][6][8][11]、医学書院 ・新体系 看護学全書経過別成人看護学② 周術期看護 メディカルフレンド社 ・周術期看護学習ワークブック メディカルフレンド社				・課題レポート(個人・グループワーク) ・発表内容、態度、出欠席 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など	
老年看護学概論			専任教員			看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回				講義・演習・交流・GW	
講義の目的と目標							
【目的】							
老年看護の目的と意義を理解し加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化や特徴を理解する。また高齢者の社会生活を支える家族や、保健医療福祉の動向と仕組みを学び、老年看護の役割を理解する。							
【目標】							
1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。							
2. 高齢者のライフステージにおける特徴と課題について説明できる。							
3. 高齢者の身体的特徴に対するフィジカルアセスメント能力を養うことができる。							
4. 高齢者の加齢に伴う変化を理解し、高齢者との交流を通して高齢者の健康保持・増進に関わりをもつことが出来る。							
5. 高齢者の生活を取り巻く社会環境や保健医療福祉のしくみについて知ることが出来る。							
講義数	講義内容						教育方法
1	1.老年期の理解と老年看護のなりたち	1)老いとは 2)老年看護の変遷 3)高齢者の時代背景 4)老年看護の目標と役割 5)老年看護の特徴(理念と視点) 6)老年看護における理論 7)老年看護における評価指標					講義
2～3	2.加齢に伴う変化	1)老化とからだ (1)老化の要因・原因 (2)恒常性 ①予備力・回復力の低下 ②防御力・適応力の低下 (3)生活リズム ①活動と休息 (4)老化の身体的特徴 ①呼吸・循環機能の変化 ②消化・吸収機能の変化 ③排泄機能の変化 ④運動機能の変化 ⑤感覚機能の変化 (高齢者の痛みの感じ方) ⑥神経機能の変化 ⑦免疫機能の変化 ⑧造血機能の変化 ⑨検査を受ける高齢者の身体に及ぼす影響 (5)高齢者におけるフィジカルアセスメントの視点) ①皮膚・感覚機能に対する高齢者特徴の観察 (6)高齢者疑似体験					講義
4～5		2)加齢とこころ (1)高齢者心理の背景 (2)高齢者の性 3)高齢社会の現状 (1)高齢者の家族世帯 (2)高齢者の健康・死亡状況 (3)高齢者の暮らしと経済 4)高齢者の理解(地域の高齢者との交流会)					講義
6		3)高齢者の社会と社会保障 1)高齢社会における保健医療福祉 (1)保健医療福祉の変遷 (2)介護保険制度 ①介護保険制度のしくみ ②介護保険サービス ③高齢者医療 ④高齢者を支える職種・ソーシャルサポート ⑤高齢者のヘルスプロモーション					講義
7～8 9		2)高齢者の権利擁護					演習 講義
10～11							演習
12	3.高齢者の社会と社会保障	1)高齢社会における保健医療福祉 (1)保健医療福祉の変遷 (2)介護保険制度 ①介護保険制度のしくみ ②介護保険サービス ③高齢者医療 ④高齢者を支える職種・ソーシャルサポート ⑤高齢者のヘルスプロモーション					講義
13～14		2)高齢者の権利擁護					講義・GW

15		(1)高齢者差別・虐待 (2)身体拘束 (3)権利擁護の為の制度 筆記試験・まとめ	
使用テキスト			評価方法
・系統看護学講座 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医歯薬出版 高齢者の看護技術			・筆記試験 ・課題レポート ★60点未満は、再試験
参考図書			
・新体系看護学全書:第29巻 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メジカルフレンド社 ・老年看護技術、ヌーヴェルヒロカワ。			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習			
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など		
老年看護学方法論Ⅰ			非常勤講師・専任教員			看護師		
						有無	有	
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類		
2年次／前期		30時間／1単位／15回				講義・演習		
講義の目的と目標								
【目的】 高齢者の健康障害が日常生活動作に及ぼす影響について学び、その問題を解決もしくは生活への影響を最小限にするための基本的な援助や看護の基本を習得する。 高齢者に特徴的な疾患に対する看護アセスメント能力を養い、高齢者およびその家族に対する看護ケアやリハビリテーションの必要性を理解する。								
【目標】 1. 加齢に伴う健康障害と生活への影響を理解する。 2. 高齢者の代表的な疾患に対する看護のアセスメント、看護援助について学ぶ。 3. 排泄方法と栄養投与の方法について、演習を通して看護実践能力を身に着ける。 4. 生活障害、健康障害に応じてのアセスメントの視点と看護援助について理解する。 5. 高齢者に対するリハビリテーション看護の目的と方法を理解する。 6. 高齢者のADL、QOLを維持、向上のための看護の視点について学び援助ができる。								
講義数	講義内容						教育方法	
1	1.高齢者の健康と生活を支える看護						講義	
2							1)コミュニケーション障害への援助 (1)コミュニケーションの視点と方法 認知症・認知障害への援助	講義
3							(2)視覚・聴覚障害への援助 白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴等	講義
							2)排泄障害への援助 (1)尿失禁 過活動膀胱等の排尿障害	
							(2)便秘・下痢 ①原因と機序 ②排便と腹部マッサージ(方法と留意点)	
4							3)清潔への援助 (1)口腔ケア (2)スキンケア・フットケア (3)褥瘡予防	講義
5							4)栄養障害への援助 (1)摂食動作 ①食欲不振・脱水	講義 演習
6～7							②咀嚼・嚥下障害	
8							(2)経管栄養(経鼻・胃瘻)への援助 ①経鼻栄養チューブの選択方法、挿入方法、留意点	講義
9	②経管栄養法による流動食の注入方法、留意点	演習						
10	2.高齢者に特有な疾患と看護						講義	
11							1)運動器・神経機能障害をもつ高齢者の看護 (1)大腿骨頸部骨折・胸腰椎圧迫骨折 (2)パーキンソン病・クロイツフェルト・ヤコブ病	講義
12							2)脳血管・循環・呼吸機障害をもつ高齢者の看護 (1)脳梗塞 (2)心不全 (3)誤嚥性肺炎	講義
	3.高齢者の健康段階に応じた看護							
							3)認知機能に障害をもつ高齢者の看護 (1)アルツハイマー型認知症 (2)レビー小体型認知症 (3)血管性認知症	
							4)感染症・皮膚疾患を持つ高齢者の看護	
13	3.高齢者の健康段階に応じた看護						講義	
14							1)リハビリテーションを受ける高齢者の看護 (1)リハビリ看護・アクティビティケア	講義
15							筆記試験・まとめ	
使用テキスト						評価方法		
・系統看護学講座 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医歯薬出版 高齢者の看護技術						・筆記試験		

		★60点未満は、再試験
参考図書		
・新体系看護学全書:第29巻 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メジカルフレンド社 ・老年看護技術, ニューウェルヒロカワ		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 老年看護の実践者として看護過程の展開ができる。					
【目標】 1. 紙上事例を通して、老年期にある対象の健康上の問題を理解し、看護過程の展開ができる。 2. 紙上事例のロールプレイを通して、保健指導に対する看護実践能力を養うことができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1.高齢者を対象とした看護過程	1)高齢者の看護過程 ・具体的事例を通して ・情報収集の仕方 (全体像の捉え方) ・アセスメントの視点 高齢者の看護過程に必要な視点 (検査値、加齢現象の捉え方等) ・問題抽出の仕方と優先順位のつけ方 ・看護計画立案と修正の仕方 2)看護過程(紙上事例展開) (1)大腿部頸部骨折の高齢者の事例 (2)脳血管障害の高齢者の看護 3)ロールプレイ(教育支援)			講義
3～13					演習
14～15					演習
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医歯薬出版 高齢者の看護技術 ・医学書院 生活機能からみた老年看護学過程				・課題レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・新体系看護学全書:第29巻 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メジカルフレンド社 ・老年看護技術, ヌーヴェルヒロカワ					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学概論		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・ワーク・発表・実習	
講義の目的と目標					
【目的】					
子どもの特徴と子どもを取り巻く環境について学び、小児看護の対象を理解する。					
【目標】					
1. 小児各期の成長発達段階を理解する。					
2. 小児各期の日常生活と支援方法を理解する。					
3. 子どもの遊びの意義と特徴を理解する。					
4. 子どもの人権について考えを深め、子ども観を養う。					
5. 子どもを取り巻く社会について理解する。					
6. 小児の栄養について理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.小児看護における成長・発達	1)子どもの成長・発達とは 2)成長発達の一般原則と成長発達に影響する因子 3)成長の評価 4)発達の評価			講義
2	2.子どもの発達段階に合わせた養育	1)新生児期の成長発達と養育			講義
3		2)乳児期の成長発達と養育			講義
4		3)幼児期の成長発達と養育			講義
5		4)学童期・思春期の成長発達			講義
6		5)新生児から幼児期までの成長発達のまとめ(個人ワーク)			演習
7		6)成長発達のまとめ発表			演習
8～9	3.子どもと遊び	1) 手作り名札兼おもちゃの発表			演習
10～11	4.これからの小児看護学	1)子どもの権利 2)小児と家族の諸統計 3)子どもの事故 4)子どもを取り巻く社会と法律 5)予防接種 6)子どもの虐待			講義
12	5.小児の栄養	1)小児の栄養			講義 演習
13～14		3)離乳食・幼児食の実際			
15		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：小児看護学①小児看護学概論 医学書院				・筆記試験 ・手作り名札 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響について学ぶ。					
小児の主な疾患・障害を理解し、看護に必要な知識・技術を学ぶ。					
【目標】					
1. 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について理解する。					
2. さまざまな状況にある子どもと家族の看護を理解する。					
3. 子どもの成長発達段階に応じた看護を理解する。					
4. 小児看護に必要な看護技術を理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.健康問題をもつ子ども・家族への看護	1)病気や入院が子どもと家族に与える影響			講義
2		・入院中の子どもと家族の看護			
3		・健康問題をもつ家族の看護			
4	2.小児のフィジカルアセスメント	2)外来・検査・処置を受ける子どもと家族の看護			講義
5		3)急性期、慢性期の子どもと家族の看護			講義
6	3.小児の疾患と看護	1)小児のフィジカルアセスメント			講義
7		1)循環器疾患の子どもと家族の看護			講義
8		2)呼吸器疾患の子どもと家族の看護			講義
9		3)先天的な問題をもつ子どもと家族の看護			講義
10		4)代謝・免疫・アレルギー性疾患の子どもと家族の看護			講義
11		5)神経疾患の子どもと家族の看護			講義
12		6)腎・泌尿器疾患の子どもと家族の看護			講義
13		7)消化器疾患の子どもと家族の看護			講義
14		8)感染症の子どもと家族の看護			講義
15		9)血液疾患の子どもと家族の看護			講義
16		10)低出生体重児、ハイリスク新生児と家族の看護			講義
17		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：小児看護学②小児臨床看護各論 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・演習・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 小児看護事例を通して看護過程を学ぶ。					
【目標】 1. 事例を通して全体像の捉え方、アセスメントの方法を理解する。 2. 発達段階に合わせたプレパレーションツールを作成することができる。 3. 小児の看護過程を理解する。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学概論		専任教員		看護師、助産師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		20時間／1単位／10回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
女性を取り巻く環境について学び、母性看護の対象及び役割を理解する。					
【目標】					
1.性の意義を理解し、生命の尊厳と人間の尊重について考えを深める。					
2.母性看護の対象を女性のライフサイクルの変化と家族のライフサイクルとの関連を通して理解できる。					
3.女性を取り巻く環境の変化および特徴と、それらが母性の役割に及ぼす影響について理解できる。					
4.生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。					
5.母子保健医療福祉チームの一員としての看護者の役割が理解できる。					
6.自己の母性・父性観を深める。					
講義数	講義内容				教育方法
1～2	1. 母性看護の基盤となる概念	1)セクシュアリティ (1)セクシュアリティ(人間の性) (2)性のもつ意義 (3)性の分化と胎児期における生殖器の発育 ①性分化のメカニズム ②身体上の性と社会性 ③性分化異常 (4)生殖器の形態・機能 ①女性の外性器・内性器 ②男性生殖器 ③女性生殖器の機能 (5)性行動・性反応の特徴 (6)性の多様性 ①障害者の性 ②性同一性障害 ③同性愛 (7)セクシュアリティの発達と課題 ①乳幼児期 ②学童期 ③思春期 ④成熟期 ⑤更年期 ⑥老年期 (8)女性のライフステージ各期における看護 ①各ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性			講義
3		2)リプロダクティブヘルス/ライツ (1)リプロダクティブヘルス/ライツとは (2)女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 3)ヘルスプロモーション (1)ヘルスプロモーションとは (2)女性の生涯にわたる健康教育 (3)ヘルスプロモーション活動における協働			
4	2. 母性の対象理解	1)母性とは (1)親になることと母性 (2)母性の身体的特性 (3)母性の心理・社会的特性 (4)母性の発達・成熟・継承 ①女性性の発達 ②母性・父性・親性の発達 (5)母性看護における母性 2)母子関係と家族発達 (1)愛着・母子相互作用と母子関係形成 (2)家族の発達課題 3)女性のライフサイクルと家族 (1)現代女性のライフサイクル (2)家族の発達段階と家族看護			講義

5	3. 母性看護の概念	1) 女性や母子へのケアに関する概念 (1)ヘルスプロモーション (2)ウェルネス (3)女性を中心としたケア (4)家族を中心としたケア (5)プレコンセプションケア 2) 母性看護の中心となる概念 3) 母子に関連する理論 4) 母性看護のあり方 (1) 母性看護とは (2) 母性看護のあり方の本質と特質 (3) 母性看護の課題と展望 5) 母性看護における倫理 (1) 母性看護における生命倫理的諸問題 ①生殖補助医療・遺伝子診断の発展に伴う倫理的問題 ②女性の健康に伴う倫理的問題 (2) 生命倫理と看護倫理 (3) 看護における倫理的意志決定 6) 母性看護における安全・事故防止 (1) リスクマネジメント (2) 事故への対応	講義
6	4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状 (1) 母性看護の変遷と現状 (2) 母性看護の提供システム ①母性看護にかかわる機関 ②母性看護に携わる職種 2) 母性看護の対象を取り巻く環境 (1) 家族 (2) 地域社会 (3) 生物学的環境 (4) 社会文化的環境	講義
7～8 9	5. リプロダクティブヘルスケア	1) 性暴力を受けた女性に対する看護 (1) 性暴力と社会 (2) 性暴力被害の実態と社会の対応 (3) 性暴力を受けた女性への援助 2) 児童虐待と看護 (1) 児童虐待の実態 (2) 児童虐待の対策 (3) 児童虐待の予防 3) 国際化社会と看護 (1) 母子保健の国際化 (2) 在日外国人の母子保健	講義 演習
10		筆記試験・まとめ	
使用テキスト			評価方法
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論, 母性看護学[1] 医学書院			・筆記試験 ・課題レポート、グループワーク
			★60点未満は、再試験
参考図書			
・国民衛生の動向			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		医師、看護師、助産師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
周産期の生理的特徴を理解し、周産期における健康保持・増進及び健康問題に関する援助方法を習得する。					
【目標】					
1.妊娠・分娩・産褥期および新生児の正常な生理的变化が理解できる。					
2.妊婦・産婦・褥婦・新生児およびその家族の心理的・社会的特徴が理解できる。					
3.妊娠・分娩・産褥期および新生児期の援助方法が習得できる。					
4.周産期において健康問題をかかえる人々への援助方法が理解できる。					
5.母子保健医療福祉における社会資源について学び、その活用方法が理解できる。					
6.自己の母性・父性意識を高めることができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1. 妊娠期における看護	1) 妊娠期の身体的特性 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育とその生理 (3) 母体の生理的变化 2) 妊娠期の心理・社会的特性 (1) 妊婦の心理 ①身体的・社会的変化に伴う心理 ②妊娠経過に伴う不安や葛藤 ③出産・育児への準備の心理 (2) 妊婦と家族および社会 ①家族の役割変化 ②社会との関係 ③就労している妊婦 3) 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠経過 (2) 胎児の発育と健康状態 (3) 妊婦健康診査 ①子宮底長測定 ②腹囲測定 ③レオポルド触診法 ④児心音の聴取 ⑤尿検査 ⑥浮腫の見方 ⑦骨盤外計測 ⑧NST(ノンストレステスト) (4) 妊婦の日常生活とセルフケア (5) 妊婦のマイナートラブルと援助 (6) 母子保健事業 (7) 親になるための準備教育 ①分娩準備教育 ②バースプラン ③育児準備・家族役割調整のための保健相談 ④胎生期の母子相互作用			講義
2～3					講義
4～5	2. 分娩期における看護	1) 分娩の要素および分娩機序 2) 分娩経過 (1) 分娩進行と産婦の身体的変化 (2) 産痛の緩和 (3) 胎児に及ぼす影響 (4) 産婦の心理・社会的変化 3) 産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 (1) 産婦と家族のニード (2) 安全・安楽な分娩への看護 (3) よいお産に向けての看護 5) 基本的ニードに関する看護 6) 分娩期の看護 (1) 分娩第Ⅰ期の看護 ①陣痛の測定(分娩監視装置) ②産痛の緩和法 ③呼吸法・リラックス法 (2) 分娩第Ⅱ期の看護 (3) 分娩第Ⅲ・Ⅳ期の看護 ①一般状態の観察 ②出血量の測定 ③胎盤計測 7) 母子相互作用 (1) 妊娠期の母親・父親の情緒的变化 (2) 出産が母親・父親に与える影響 (3) 新生児の知覚 (4) 母子相互作用・早期母子接触 (5) 母子関係障害			講義

6～7	3.産褥期における看護	1)産褥経過 (1)産褥期の身体的変化 ①進行性変化 ②退行性変化 (2)産褥期の心理・社会的変化 (3)社会的支援 2)褥婦のアセスメント (1)産褥経過 (2)褥婦の健康状態 3)褥婦と家族の看護(セルフケアを高める援助) (1)身体機能回復および進行性変化 (2)児との関係確立へ向けて (3)母乳栄養確立へ向けて ①乳頭・乳輪マッサージ (4)育児技術にかかわる援助 ①抱き方 ②寝かせ方 ③おむつ交換 ④衣類の着脱 ⑤ボトル授乳 ⑥沐浴 (5)日常生活とセルフケア(退院支援)	講義
8			講義
9～10	4. 新生児期における看護	1) 新生児期の生理的变化と診断・検査 (1)アプガースコア (2)成熟度の評価、神経学的状態 (3)循環、呼吸、体温、体液バランス (3)消化吸収と栄養、ビリルビン代謝 (4)原始反射 (5)身体的特徴 ①生理的体重減少 ②新生児中毒性紅斑、母斑 ③臍帯脱落 ④魔乳、帯下、月経 2)新生児のアセスメント 3)新生児期の看護技術 (1)臍・臍処置 (2)バイタルサイン測定 (3)身体計測 (4)沐浴 ①身長 ②体重 ③頭囲 ④胸囲 (5)ビタミンKの投与 (6)新生児マススクリーニング (7)新生児聴覚スクリーニング 4)新生児期の看護 (1)新生児とのコミュニケーション (2)子宮外生活適応への援助 (3)医療事故、医療安全、感染予防 5)生後1か月健診に向けた退院時の看護	講義
11			演習
12～13	5.ハイリスクな状況にある人々と家族の看護	1)妊娠の異常と看護 (1)切迫流・早産 (2)妊娠高血圧症候群 (3)妊娠性糖尿病 (4)常位胎盤早期剥離 (5)前置胎盤 (6)多胎妊婦の看護 (7)高年妊婦・若年妊婦の看護 2)分娩の異常と看護 (1)胎児機能不全 (2)陣痛異常 (3)分娩時異常出血 (4)軟産道損傷 (5)母子分離 3)産褥の異常と看護 (1)子宮復古不全 (2)貧血 (3)乳腺炎 (4)産褥熱 (5)産後うつ病 (6)感染症(ATL・AIDS・B型肝炎) 4)新生児の異常と看護 (1)新生児仮死 (2)新生児蘇生 (3)分娩外傷 (4)早産児、低出生体重児 (5)高ビリルビン血症 (6)先天異常・障害 (7)新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症 5)不妊治療と看護 (1)子どもを産み育てること (2)遺伝相談 (3)不妊治療と看護 (4)生殖補助医療(ART)後の妊婦の看護	講義
14			講義
15		筆記試験・まとめ	
使用テキスト		評価方法	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論,母性看護学[2] 医学書院		・筆記試験 ・課題レポート	
		★60点未満は、再試験	
参考図書			
・カラー写真で学ぶ周産期の看護技術, 医歯薬出版, 第2版 ・NURSING TEXTBOOK SERIES 母性看護学Ⅱ 周産期各論,医歯薬出版,第2版			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護師、助産師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
3年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】					
紙上事例による看護過程の展開を通して、母性看護の具体的な援助方法を習得すると共に、健康に働きかける看護のあり					
【目標】					
1.紙上事例を用い、対象に応じた個別的な看護過程の展開方法を身につける。					
2.シミュレーション学習を通し、母性看護における基礎的知識・技術・態度の統合ができる。					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学概論				専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回				講義	
講義の目的と目標							
【目的】 精神看護学の位置づけ、精神看護の意義、目的、対象、機能と役割を学ぶ。 心の構造・働きや発達を理解し、精神の健康の保持・増進のための支援法を学ぶ。 わが国の精神保健福祉制度を学び、人権・福祉・精神保健・地域社会との連携のあり方を学ぶ。							
【目標】 1. 精神看護の目的・意義、対象、機能と役割を理解する。 2. 人間の心を見る視点、そのはたらきやストレスの影響、心の防衛機制、その危機と回復など心のありようを理解する。 3. 人間の心の発達過程を、代表的な発達理論から理解する。 4. ライフサイクルにおける精神の健康と、各期の特徴と危機を理解する。 5. 現代社会における心のありよう、親や子どもの置かれている状況を理解し、その問題点を考える。 6. 精神保健の歴史的変遷から精神に障害を持つ人々の歴史的処遇、法制度を知り、精神障害をもつ人の生きにくさを理解する。 7. リエゾン精神看護の具体的な活動を知り、看護師のメンタルヘルス支援について理解する。							
講義数	講義内容						教育方法
1～2	1. 「精神看護学」で学ぶこと		・精神看護学とは何だろうか？ 1)精神保健で扱われる現象 2)精神的健康の保持・増進としての精神保健 3)地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス) 4)「精神看護」の分野			講義	
3～4	2. 「精神(心)」のとらえかた		1)脳の構造と認知機能 ・心はどこにある？ 2)精神(心)の構造とはたらき ・自我の防衛機制			講義	
5～6	3. 精神(心)の発達に関する主要な考えかた		1)エリクソンの漸成的発達理論 (1)各発達段階の特徴 (2)各発達段階における危機			講義・GW	
7	4. 家族と精神(心)の健康		1)家族とは 2)家族ライフサイクル 3)家族システム			講義・GW	
8～9	5. 精神(心)の危機状況と精神保健		1)危機とは何か？：危機理論・危機モデル 2)ストレスとストレスコーピング 3)ストレスが生み出す力：レジリエンス			講義・発表	
10	6. 現代社会と精神(心)の健康		1)現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理 2)現代社会における精神保健の主な問題			講義・GW	
11～13	7. 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿		1)精神医療の歴史 2)精神障害をもつ人を守る法・制度 3)精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇			講義	
14	8.リエゾン精神看護		1)リエゾン精神看護とは 2)リエゾン精神看護活動 3)リエゾン精神看護のケアの実際			講義	
15			筆記試験・まとめ				
使用テキスト						評価方法	
・新体系看護学全書：精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 ・新体系看護学全書：精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社						・筆記試験	
						★60点未満は、再試験	
参考図書							
・系統看護学講座：精神看護学①精神看護の基礎 ②精神看護の展開 医学書院 ・学生のための精神看護学 医学書院 ・生活障害と看護の実践 メディカ出版 ・精神看護学ノート、医学書院							

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名				実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学方法論Ⅰ				非常勤講師・専任教員		看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
精神に障害のある対象の精神症状や状態像、治療法を学び、その対象が体験している世界を知り、精神障害者への理解を深め、対象とその家族への援助の視点を学ぶ。							
【目標】							
1. 精神障害をもつ人の生活のしづらさに共感でき、精神の障害を医学的側面、心理的側面、社会的側面から理解できる。							
2. 精神症状や状態像によってもたらされる生活行動のリズムの乱れや、生活のしづらさを理解し 必要な看護が理解できる。							
3. 精神障害をもつ対象の治療的環境と、その環境の特性を理解し看護の方法が理解できる。							
4. 精神障害をもつ人をケアする家族への影響と、その支援について理解できる。							
5. 司法精神医療の位置づけについて知り、司法精神看護の役割について理解できる。							
6. 精神障害をもつ人との「患者－看護師」関係のあり方を理解する。							
講義数	講義内容						教育方法
1	1. 精神(心)を病むということ		1)「精神(心)を病む」とはどうか 2)精神障害とスティグマ 3)精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているか 4)精神障害とともに生きる				講義
2～3	2. 精神障害をもつ人の抱える症状と看護		1)精神障害をもつ人の抱える症状 (1)不安状態にある患者の看護 (2)抑うつ状態にある患者の看護 (3)幻覚・妄想状態にある患者の看護 (4)精神運動興奮状態にある患者の看護 (5)躁状態にある患者の看護 (6)強迫症状のある患者の看護 (7)昏迷状態にある患者の看護 (8)拒否や拒絶状態にある患者の看護				演習
4～9	3. 精神疾患/障害をもつ患者への看護		1)統合失調症の患者の看護 ・急性期 ・回復期 ・慢性期 2)気分(感情)障害の患者の看護(事例) 3)嗜癖(アルコール依存症・薬物依存症等)のある患者の看護 4)人格障害、摂食障害、ストレス関連障害の看護				講義
10	4. 精神障害をもつ人をケアする家族への支援		1)精神障害の家族への影響 2)家族への支援 (1)家族心理教育				講義
11～12	5. 精神科病棟という治療的環境と患者の生活		1)精神科病棟という治療的環境と患者の生活 (1)精神障害をもつ人にとっての入院の意味 (2)治療環境の整備 (3)事故防止・安全管理と倫理的配慮				講義
13	6. 司法精神医療と看護		1)司法精神医療と司法精神看護 2)触法精神障害者の処遇としての司法精神医療 3)暴力被害者の支援としての司法精神看護				講義
14	7.精神障害をもつ人と「患者-看護師」関係の構築		1)精神障害をもつ人とのかかわりかた 2)精神障害をもつ人とのコミュニケーション 3)精神障害をもつ人との関係の振り返り				講義
15			筆記試験・まとめ				
使用テキスト						評価方法	
・新体系看護学全書:精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メディカルフレンド社						・筆記試験	
						★60点未満は、再試験	
参考図書							
・系統看護学講座:精神看護学①精神看護の基礎 ②精神看護の展開 医学書院							
・学生のための精神看護学 医学書院 ・生活障害と看護の実践 メディカ出版							
・精神看護学ノート, 医学書院							

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			演習・講義	
講義の目的と目標					
【目的】					
精神看護の基本を学び、治療的人間関係を深めるための精神看護実践能力を身につける。					
【目標】					
1. 紙上事例を通して、精神障害をもつ対象を理解し、病期に応じた看護過程が展開できる。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護活動と管理		非常勤講師・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		20時間／1単位／10回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
質の高い看護を提供するためのマネジメントの目的や方法を学習し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。					
【目標】					
1. 看護の対象となる人々に最も良質で効果的な看護を提供するためのしくみについて学習する。					
2. 病院の組織や機能などの基本的な成り立ちについて学び、看護部門の位置づけを理解する。					
3. チーム医療における多職種との連携・協働について理解する。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.看護とマネジメント	1)看護管理学とは 2)看護におけるマネジメント 3)看護におけるマネジメントの考え方の変遷			講義
2	2.看護ケアのマネジメント	1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重 3)安全管理 4)日常業務のマネジメント			講義
3	3.看護職のキャリアマネジメント	1)看護職のキャリア形成 2)タイムマネジメント・ストレスマネジメント			講義
4	4.看護サービスのマネジメント	1)看護サービスのマネジメント 2)組織達成のマネジメント 3)看護サービス提供のしくみづくり 4)人材のマネジメント 5)施設・設備環境のマネジメント 6)物品のマネジメント 7)情報のマネジメント			講義
6	5.マネジメントに必要な知識と技術	1)マネジメントプロセス 2)リーダーシップとマネジメント 3)組織の調整 ・集団 組織文化 動機づけ エンパワメント コンフリクト 変化と変革			講義
7～8	6.チーム医療	1)チーム医療とは 2)チーム医療に必要な機能 (1)連携・協働 (2)コミュニケーション 3)多職種との連携・協働 4)事例：問題点の明確化			講義・演習
9	7.感染管理	1)スタンダードプリコーションに基づいた感染管理 2)感染管理に関する看護技術 (1) 基本的な感染防御の技術 (2) 療養環境整備 (3) ケアと感染防止 (4) 医療行為を行うときの感染防御に関する技術 (5) 医療廃棄物の対処 3)感染管理と看護マネジメント			講義
10		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・看護の統合と実践① 看護管理 医学書院				・筆記試験 ・授業への出席・参加状況・GW ・グループ発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	専門分野臨地実習		
科目名			実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など	
医療安全			非常勤講師			看護師	
						有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数				講義の種類	
2年次／後期		20時間／1単位／10回				講義・演習	
講義の目的と目標							
【目的】							
医療安全の視点から、安全な医療・看護を提供する意義と役割について理解を深め、倫理的判断能力・リスクマネジメント能力を養う。							
【目標】							
1. 医療安全の意義について学び、安全な医療・看護の実践について理解できる。							
2. 医療事故防止に関する、看護師の責任と倫理的判断能力を身につけることができる。							
3. 医療事故予防のための医療と看護システムについて理解できる。							
4. 事故分析手法を学び、医療事故事例の分析・シミュレーションを通してリスクマネジメント能力を養う。							

10	2)リフレクション (1)事故の原因分析 (2)自己モニタリングと事故体験の意味づけ 筆記試験・まとめ	
使用テキスト		評価方法
・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全		・筆記試験 ★60点未満は、再試験
参考図書		
・嶋森好子:医療安全とリスクマネジメント, ヌーベルヒロカワ ・川村治子:医療安全ワークブック, 医学書院		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
災害看護・国際看護		非常勤講師		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
3年次／前期	15時間／1単位／8回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護活動における災害看護を理解し、国際的視野から看護について学ぶ。					
【目標】 1. 災害看護の概要を学び、災害医療における看護の役割を理解する。 2. 災害時に必要となる救急処置の基礎知識を身につけ、災害看護活動の実際を学ぶ。 3. 国際的な医療・看護活動のしくみや実際、グローバルな視点で健康課題を捉え看護の役割を学ぶ。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.災害医療とは	1)災害医療の基礎知識 ・災害の定義と種類、健康障害・健康被害 ・災害サイクルと医療・看護支援活動・災害派遣チーム(DMAT) ・災害医療にかかわる医療制度 ・災害時の支援体制と医療制度 情報システムと職種間・組織間連携 ・国内救援活動の実際と課題			講義
	2.災害看護の特徴	1)災害看護の基礎知識 ・災害看護の定義と役割 ・災害看護の特徴(災害弱者)			
2 3～4	3.災害サイクルに応じた活動	1)災害サイクル各期の看護 2)災害時の看護技術 (1)トリアージ トリアージの基礎、模擬患者へのトリアージ (2)応急処置の方法 ・外傷の手当(止血法等) (3)被災者の安全な移送方法 ・搬送・移送 3)自治体、実習施設による総合防災訓練の実際 4)災害時の精神的ケア 災害時の精神保健:災害時精神保健医療			講義 演習
5					講義
6	4.国際看護の概要	1)グローバルヘルスと国際看護SDGs ・人間の安全保障、健康格差 2)多様な文化と看護 ・異文化理解、看護の対象			講義
7	5.国際協力活動	1)国際協力のしくみ、期間、役割 2)国際協力活動を必要とする人々、地域、組織 3)国際救援活動と看護			講義
8		筆記試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法	
・ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 ・系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護技術の統合		専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
3年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・演習・実技	
講義の目的と目標					
【目的】 看護の対象の特性・状況をアセスメントし、必要な援助を統合・実践する基礎的能力を習得する。					
【目標】 1. 看護の対象の心情を把握し、意図的にコミュニケーションができる。					
講義数	講義内容				教育方法
1	1.看護の統合と実践	1)OSCE(客観的臨床能力試験)とは 2)演習オリエンテーション ・目的、目標、計画について ・シナリオ、事前学習 ・自己課題シート、事前学習シートの提示			講義
2	2.シナリオの患者理解	1)シナリオの学力試験と振り返り 筆記試験			講義
3	3.看護計画の立案	1)シナリオの優先順位を踏まえた看護計画の立案 (個人ワーク)			演習
4～5	4.看護計画の立案と実施	1)グループワーク ①個々の患者の看護計画の立案 ②行動計画立案 ③指定の用紙の提出			演習
6～9		2) 患者の状態にあった看護技術の習得 ・グループでの技術練習 3) 看護実践への応用 ①優先順位を踏まえたマネージメント ②看護計画・実践の振り返り、修正 ・指定用紙の提出			演習
10～13	5.OSCE (客観的臨床能力試験)	1)看護の統合と実践 ①OSCE(実技試験) ②リフレクション			実技
14～15		2)自己の課題の明確化 自己課題シート提出			演習
使用テキスト				評価方法	
				・OSCE(客観的臨床能力試験) ・シナリオ筆記試験 ・リフレクションシート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・中村恵子:看護OSCE, メヂカルフレンド社					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学実習Ⅰ		企業実習者・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数		講義の種類	
1年次／前期		45時間／1単位／6日		実習	
実習の目的と目標					
【目的】					
看護における活動の場、患者の療養環境を知り、患者とのコミュニケーションを図る。					
【目標】					
1. 看護の場である病院および病棟の構造について理解できる。					
2. 入院患者の生活環境が理解できる。					
3. 人間関係形成のためのコミュニケーションを図ることができる。					
4. 看護学生としての自覚と責任を持ち行動できる。					
目標	行動目標		実習内容		教育方法
1	1) 病院の概要を知る 2) 各部署の機能と役割を知る 3) 職種の種類を知る 4) 病棟。病室の構造と整備について知る		(1) 病院の特徴、看護部の機能と役割 (1) 各部署の見学 (1) 職種の種類 (1) 病棟オリエンテーション参加 (2) 部屋の種類、使用目的 (3) 病室内の構造と設備、ベッドの構造 (4) 一般住宅との相違		実習
2	1) 生活環境としての条件を知る 2) 安全面への配慮を知る 3) 基本的な感染予防対策ができる		(1) 生活環境としての病棟の温度、湿度、音、光、匂いなど (2) プライバシーの保持への配慮 (3) 共有スペースの使用方法 (4) 病室の環境を整える援助 (1) 安全面への配慮(ベッド柵やナースコール、感染予防) (1) 標準予防策 (2) 手指衛生のタイミング (3) 感染性廃棄物等の廃棄方法 (4) 感染性リネンの取り扱い		
3	1) 患者やスタッフに対して尊重した態度や言葉遣いができる 2) コミュニケーションの基本原則を意識したコミュニケーションが図れる 3) 自己のコミュニケーションの傾向や特徴を知る		(1) 礼節やマナーのある行動 (1) 受容、傾聴、共感的態度 (2) 患者の行動や態度、表情、言葉に関心を向ける (1) プロセスレコードを用いて自己のコミュニケーション技術を振り返る		
4	1) 自ら進んで学習に取り組み、指導や助言を受け入れる姿勢が持てる 2) 規則や約束事を守ることができる 3) グループで協力・協調できる 4) 看護学生として適切な報告・連絡・相談ができる 5) 個人情報保護を守ることができる		(1) 患者の権利擁護、看護者の倫理綱領、実習に必要な知識の整理と技術の確認(事前学習) (2) 自己の考えを自主的に発言する (3) カンファレンスで他学生の追体験をし、自分の学ぶにする (4) 期限までに決められた提出内容を自主的に提出する (5) いつ、誰に報告・連絡・相談するべきかを考えた行動		
使用テキスト			評価方法		
			・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習			
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
基礎看護学実習Ⅱ		企業実習者・専任教員		看護師		
				有無	有	
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類		
1年次／後期	45時間／1単位／6日			実習		
実習の目的と目標						
【目的】						
健康障害により入院生活を余儀なくされている対象を理解し、日常生活の援助を実施する。						
【目標】						
1. 意図的に、適切なコミュニケーションを図ることができる。						
2. 対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集ができる。						
3. 対象の安全・安楽に配慮して日常生活の援助を実施し、振り返り、評価できる。						
4. 看護学生として適切な観察・記録・報告ができる。						
5. 自主的に学ぶ行動ができる。						
目標	行動目標	実習内容			教育方法	
1	1)コミュニケーション技術を活用できる	(1)患者と看護師のコミュニケーションの観察 (看護師シャドーイングの実施)			実習	
2	2)意図的なコミュニケーションを図ることができる	(2)効果的なコミュニケーション				
2	1)受け持ち患者を身体的、精神的、社会的側面から捉え、情報収集ができる	(1)患者とのコミュニケーションや日常生活の援助を通して情報収集する (2)診療記録や看護記録、患者家族、看護師、医療チームなどから情報収集する (3)即定のアセスメントツールを用いた情報の整理・分類				
3	1)行動計画に基づいて安全・安楽に配慮し日常生活の援助を実施し、振り返り評価ができる	(1)見出した援助項目の根拠を明確にし、患者に合わせた援助計画を考え実施する ＜日常生活援助技術の実際＞ (1)病室の環境を整える援助 (2)清潔、衣生活への援助 (3)食事の充足への援助 (4)排除の充足への援助 (5)活動、休息への援助 (6)バイタルサインの測定				
4	1)観察、記録、報告が正確に行える	(1)観察 (2)コミュニケーションやカルテ、観察によって得られた情報を正確に記録する (3)行動計画表に基づいて簡潔明瞭及び正確に報告する (4)誰に、いつ報告すべきかを正しく判断し時期を逸せず報告する (5)行動計画に基づいて援助内容や根拠を指導者に報告する				
5	1)主体的な学習姿勢を身につける	(1)実習に必要な知識の整理と技術の確認(事前学習) (2)学生自身がカンファレンスを自主的に運営しメンバーシップ、リーダーシップを図る (3)カンファレンスで他学生の追体験をし、自分の学びにする (4)自己の考えを自主的に発言する (5)期限までに決められた提出内容を自主的に提出する (6)個人情報の保護				
使用テキスト			評価方法			
			・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習			
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学実習Ⅲ		企業実習者・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数		講義の種類	
2年次／前期		90時間／2単位／12日		実習	
実習の目的と目標					
【目的】					
基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護過程展開の基本を習得する。					
【目標】					
1. 対象を総合的に理解し、看護問題を抽出できる。					
2. 対象に必要な援助を計画し、実践及び評価できる。					
3. 受け持ち患者に関わる職種を知り、看護の役割を理解できる。					
4. 自主的に学ぶ行動ができる。					
目標	行動目標	実習内容			教育方法
1	1) 患者の全体像を把握するための情報収集ができる	(1) 意図的に、目的、系統的な情報収集 (2) 優先順位を考えた情報収集 (3) 情報収集の手段の判断			実習
	2) 収集した情報の分析ができる	(1) アセスメントツールの枠組みの沿った情報の整理と分類 (2) 各項目の分析の視点 (3) 分析の方法			
	3) 対象を総合的に理解できる	(1) 全体関連図の書き方			
	4) 看護上問題を明確にできる	(1) 看護上の問題の明確化 (2) 優先順位の考え方			
2	1) 患者の状況に応じた看護計画が立案できる	(1) 看護目標を設定する (2) 目標を達成するための具体的な立案をする (3) 行動計画を立案する			
	2) 立案した看護計画に基づいて看護実施ができる	(1) 行動計画実施表の書き方 (2) 具体策に基づいた実践 (3) 原理、原則を踏まえ安全・安楽・自立に向けた個別性のある援助 (4) 患者の準備、物品の準備、片付け			
	3) 日々の看護実践を振り返り、看護計画の追加・修正ができる	(1) 日々の看護実践の結果を記録する(SOAP記録) (2) 看護計画の追加・修正をする			
	4) 看護の評価ができる	(1) 看護目標の達成状況、看護問題の解決状況を評価する			
3	1) 受け持ち患者に関わっている職種とその役割、医療チームにおける看護師の役割について記述できる	(1) 多職種の役割と患者への関わり方を観察する (2) 連携の重要性			
4	1) 積極的にグループメンバーとしての役割が果たせる 2) 十分に事前学習・追加学習をして患者の状態に応じて応用できる	(1) カンファレンスを学生自身が自主的に運営しメンバーシップ、リーダーシップを図る (2) 自分の考えをまとめて自主的に発言する (3) グループメンバーの一員として積極的に行動する (4) 期限までに決められた提出物を自主的に提出する			
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習			
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
地域・在宅看護論実習Ⅰ		企業実習者・専任教員		看護師		
				有無	有	
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数		講義の種類		
1年次／前期		45時間／1単位／6日		実習		
実習の目的と目標						
【目的】						
地域で生活する人々の健康と暮らしを支える看護の基礎的能力を養う。						
【目標】						
1. 地域包括支援センターの概要について理解する。						
2. 人間関係形成のためのコミュニケーションを図ることができる。						
3. 地域で生活する高齢者や支援を必要とする人々(対象者)の抱えるニーズを知る。						
4. 介護予防事業へ参加し、地域の実情に応じた多様な支援について学ぶ。						
5. 対象者の健康と暮らしに関わる職種を知り、看護の役割を考える。						
6. 看護学生としての自覚と責任を持ち行動できる。						
【地域包括支援センター】						
目標	行動目標		実習内容		教育方法	
1	1) 地域包括支援センターの概要を知る		(1) 地域包括支援センターの概要		実習	
	2) 職種の種類と役割を知る		(1) 職員の職種・配置数・役割			
	3) 地域包括支援センターの業務を知る		(1) 地域包括支援センターの業務 (2) 相談援助			
2			(1) 礼節やマナーのある行動			
3			(2) 対象者とスタッフのコミュニケーションの観察			
	1) 対象者やスタッフに対して丁寧に関わる		(1) 受容、傾聴、共感的態度 (2) 対象者、スタッフの行動や態度、表情、言葉に関心を向ける			
4	2) コミュニケーション技術を活用できる 3) 対象者のニーズを聞くことができる		(1) 介護予防事業へ参加する			
5	1) 介護予防事業へ参加し、多様な支援を知る 2) 安全・安楽に配慮した行動がとれる 3) 基本的な感染予防対策ができる 4) 対象者の健康と暮らしに関わる職種の中で看護の役割を考える		(1) 標準予防策 (2) 手指衛生のタイミング			
6			(1) 実習に必要な知識の整理 (2) カンファレンスで他学生の追体験をし、自分の学びにする (3) 自己の考えを自主的に発言する (4) 期限までに決められた提出内容を自主的に提出する (5) いつ、誰に報告・連絡・相談するのか考えて行動する			
	1) 自ら進んで学習に取り組み、指導や助言を受け入れる姿勢が持てる 2) 規制や約束事を守ることができる 3) グループで協力・協調できる 4) 看護学生として適切な報告・連絡・相談ができる 5) 個人情報保護の守ることができる					
使用テキスト			評価方法			
			・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習			
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護論実習Ⅱ		企業実習者・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数		講義の種類	
2年次／後期		45時間／1単位／6日		実習	
実習の目的と目標					
【目的】					
地域で暮らす人々が、多様な活動の場(社会参加)において、共に支え合い、成長しながら地域で共生していることを理解し、地域で共生していることを理解し、地域での看護の役割について学ぶ。					
【目標】					
1. 多様な活動の場について理解できる。					
2. 多様な活動の場を活用する人々の健康課題を理解しADL・QOLの維持向上に向けた援助ができる。					
3. 多職種との連携を学び、継続看護の意義が理解できる。					
4. 自主的に学ぶ行動ができる。					
【介護サービス事業所・障害福祉サービス事業所】					
目標	行動目標		実習内容		教育方法
1	1)事業所の概要を知る 2)職種の種類と役割を知る 3)事業所の業務を知る		(1)事業所の概要 (2)根拠となる制度 (3)職員の職種・配置数・役割 (4)事業所の業務		実習
2	1)利用者の健康課題を踏まえ、コミュニケーションをとり特徴を知る 2)利用者の残存機能を活かし、機能維持・向上に向けた援助ができる 3)安全・安楽に配慮した行動がとれる 4)基本的な感染予防対策ができる		(1)利用者の特徴を把握し、受容・傾聴・共感的態度で接する (2)利用者の日常生活を知る (3)利用者が活動の場へ参加することで、生活に及ぼす影響について考える (4)利用者が活動の場へ参加することで、家族に及ぼす影響について考える (5)事業所で活動する利用者の健康課題を知る (6)事業所における利用者への生活援助について知る (1)利用者がどのように生活したいか(QOL)を考えながら援助を行う (2)利用者の安全性を配慮し援助を行う (3)利用者の残存機能を活かし、機能維持・向上に向けた援助を行う (4)事業所でのアクティビティケアの企画・運営をする (5)標準予防策 (6)手指衛生のタイミング		
3	1)事業所の看護の実際を知る 2)利用者の生活を支えている多職種の位置づけや役割を学ぶ		(1)事業所での看護師の実際を知る (2)事業所の看護師の役割を知る (3)多職種の役割を知る (4)多職種の業務を見学する		
4	1)主体的な学習姿勢を身に付ける		(1)実習に必要な知識の整理 (2)アクティビティケアへの積極的な参加 (3)学生自身がカンファレンスを自主的に運営し、メンバーシップ、リーダーシップを図る (4)カンファレンスで他学生の追体験をし、自分の学ぶにする (5)自己の考えを自主的に発言する (6)期限までに決められた提出内容を自主的に提出する		
使用テキスト			評価方法		
			・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護論実習Ⅲ		企業実習者・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数		講義の種類	
3年次／前期		90時間／2単位／12日		実習	
実習の目的と目標					
【目的】 訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所の役割・機能を理解し、在宅療養者のもつ療養上の課題を知り、療養者及び家族のQOL向上へ向けて看護者の果たす役割について学ぶ。					
【目標】 1. 訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所の組織・機能・活動の概略について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族が持つ療養上の問題を把握し、QOL向上へ向けた個別的な在宅看護の展開方法を学ぶ。 3. 在宅療養者の健康問題の種類とレベルに合わせた保健医療福祉の連携と社会資源の活用方法が理解できる。 4. 在宅看護に必要な看護の責任・倫理的配慮が理解できる。					
【訪問看護ステーション】【居宅介護支援事業所】					
目標	行動目標	実習内容		教育方法	
1	1)訪問看護ステーションの役割・機能が理解できる 2)訪問看護ステーションの活動の実際を知る 3)継続看護の必要性が述べられる	(1)在宅療養における訪問看護ステーションの役割・機能(職員構成・特徴・サービス内容) (1)訪問看護ステーションの活動 (1)継続看護・継続指導		実習	
2・3	1)在宅療養者のその家族の特性を健康段階、発達段階、生活背景から説明できる 2)在宅療養者とその家族がもつ健康上、生活上の問題が把握できる 3)在宅療養者とその家族の健康状態や生活状況から看護上の問題をアセスメントし看護計画を立案することができる	(1)事前の情報収集 (1)訪問計画の立案 (1)計画の実施 (1)療養者が利用している社会資源の種類、利用状況			
4	4)計画に基づいた看護援助の実践が出来る	(1)評価及び修正			
5	5)対象が活用できる社会資源の種類及び活用状況を述べる事ができる 6)行った看護の評価・修正ができる				
1	1)居宅介護支援事業所の役割・機能が理解できる 2)居宅介護支援事業所の活動の実際を知る	(1)居宅介護支援事業所の位置づけ (2)在宅療養における居宅介護支援事業所の役割・機能 (1)職員体制 (2)介護支援専門員(以下同 ケアマネージャー)の法的根拠 (3)ケアマネージャーの活動の実際			
2・3	1)介護支援専門員によるケアプランの実際を知る	(1)ケアプラン作成までの経過 (2)ケアプラン作成 (3)ケアプラン作成における倫理的配慮			
4	1)社会資源の種類及び活用状況について理解できる 2)関連機関・関連職種との連携の実際を学ぶ	(1)介護保険制度 (2)利用できるサービス (1)関連機関・関連職種との連携・調整の実際(サービス担当者会議)			
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習			
科目名				実務経験のある教員名			実務経験の反映状況など		
成人・老年看護学実習Ⅰ				企業実習者・専任教員			看護師		
							有無	有	
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数					講義の種類		
2年次／後期		135時間／3単位／17日					実習		
講義の目的と目標									
【目的】 成人期から老年期にある対象の健康の保持増進と、疾病予防の活動と保健医療福祉チームにおいての看護の役割を理解する。 また、対象の健康問題を理解し、慢性期・終末期の経過をたどる対象とその家族への看護を実践する能力を養う。									
【目標】 1. 成人期・老年期における対象の健康の保持増進と疾病予防の活動の実際を理解できる。 2. 健診(検診)センター、外来、透析室における看護の役割を理解できる。 3. 慢性的な疾病コントロールの経過・終末期の経過をたどる対象とその家族を総合的に理解できる。 4. 成人期・老年期にある対象とその家族のニーズを把握し、対象に応じた看護計画を立案し、日常生活動作(ADL)・QOLに対する援助が実践できる。 5. 成人期・老年期にある対象とその家族を取り巻く保健医療福祉チーム間の連携の必要性、必要な社会資源を考え、継続看護を学ぶ。 6. 慢性期・終末期における看護の役割を学ぶ。									
目標	行動目標			実習内容				教育方法	
1・2	1)成人期・老年期の特徴及び成長発達課題を述べることができる			(1)成人・老年期の身体的、心理的、社会的・霊的特徴を理解する				実習	
3	2)成人・老年期におけるヘルスプロモーションについて理解する			(1)ヘルスプロモーションを理解					
	3)健診(検診)センターの役割と機能を理解する			(1)健診(検診)センターでの人間ドック説明、見学					
4・6	4)外来における看護の役割と機能を理解する			(1)外来における看護の役割と機能					
	5)成人・老年期の特徴を踏まえ対象の身体的・精神的・社会的・霊的側面から統合的に全体像が把握できる			(1)対象の情報収集					
1・4	6)疾病を悪化させる因子と兆候の情報収集できる			(1)慢性期・終末期のステージ					
	7)対象が疾病により、生活障害を起こしている状況と今後予測される生活上の制約について情報収集ができる			(1)現在の健康レベルの把握 (2)疾病の変化に伴う生活上の制約					
	8)対象及び家族が疾病をどのように受け止めているか述べられる			(1)対象及び家族より情報収集する					
	9)収集した情報の整理分類ができる			(1)収集した情報の整理・分類を行い記録用紙に記述する					
	10)収集した情報のアセスメントを行い、看護問題を抽出する			(1)情報収集した対象の情報を客観的、科学的根拠に基づいて分析・解釈し統合する (2)看護上の問題を明確にする					
	11)看護問題の優先順位を判断し、それをふまえた看護計画が立案できる			(1)看護問題の優先順位を決定する (2)看護目標(短期・長期目標)を設定する					
	12)看護計画に基づき実践できる			(1)立案した具体案にそった援助を実施する (2)実施した援助内容や観察したことを記録する					
	13)実施した看護を評価し修正することができる			(1)実施した看護計画が妥当であったか、また目標達成できたかを評価する (2)看護援助の評価を行い計画の追加・修正をする					
	14)実施した看護を要約し継続看護へ結びつけることができる			(1)看護要約(サマリー)					
	15)対象に必要な社会資源を述べることができる			(1)社会福祉関係の法律と社会資源の制度について (2)対象に必要な社会資源					
16)死への過程に伴う対象とその心理状態を理解する			(1)対象が自己の病状に対して受容の状況の把握 (2)家族が対象の病状に対して受容の状況の把握						
17)生と死について考えを述べることができる			(1)臨終・死亡時の処置						
18)慢性期・終末期の看護を通して、自己の看護観を記述できる			(1)実習を通して、自己の看護観について振り返る						

5	【透析室実習】 1)透析の概要と透析室の構造について理解する 2)透析時の看護を理解する 3)透析を受ける対象の援助について説明できる 4)透析療法を受ける対象の心身へ及ぼす影響を説明できる	(1)透析室の見学 (2)スタッフ構成について説明、スタッフの職種と人数構成配置体制 (3)透析について説明 (1)透析の一連を見学・観察 (1)透析看護の援助 (2)透析患者の社会資源活用の実際について説明 (1)透析が日常生活に及ぼしている影響	
使用テキスト			評価方法
			・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習
参考図書			
・特になし			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
成人・老年看護学実習Ⅱ				企業実習者・専任教員				看護師			
								有無		有	
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数						講義の種類			
3年次／前期		90時間／2単位／12日						実習			
講義の目的と目標											
【目的】											
成人・老年期における健康問題を理解し、周手術期にある対象とその家族への看護を実践する能力を養う。											
【目標】											
1.周手術期にある対象のその家族を総合的に理解できる。											
2.対象とその家族のニーズを把握し、対象に応じた看護計画を立案し実践できる。											
3.対象とその家族を取り巻く医療チームとしての看護の役割や保健医療福祉チーム間での連携を理解することができる。											
4.手術室、集中治療室、救急外来室の環境を理解し、看護の役割を理解できる。											
5.実習を通して、急性期における看護の役割を述べることができる。											
目標		行動目標				実習内容				教育方法	
1		【術前の看護】				(1)対象の情報収集 (1)対象及び家族より情報を把握 (1)全身状態を把握 (1)収集した情報の整理・分類を行い記録用紙に記述する (1)情報を客観的・科学的根拠に基づいて分析・解釈し統合する (2)看護上の問題点を明確にする (1)問題の優先順位を決定する (2)看護目標(短期目標)を設定する (3)看護計画立案をする (1)立案した具体案にそって援助または実施する (2)実施した援助内容や観察したことを記録させる (1)術前オリエンテーションを実施する (1)術前訓練の目的を術前検査・麻酔の種類・術式から理解し、実施する (1)手術前日・当日の看護を実施する (2)チェックリストに沿って手術室入室前の準備と観察が理解できる (3)手術室の搬入時の申し送りの方法が理解できる (4)術後ベッドの作成ができる (1)実施した看護目標が達成できたか評価する (2)対象の反応や状況変化に応じて計画の評価・修正をする				実習	
2・3		1)成人・老年期の特徴を踏まえ対象の身体的・精神的・社会的側面から統合的に全体像が把握できる									
		2)対象やその家族の手術に対する受け止めや心理状況を理解できる									
		3)術前の全身状態を把握でき、看護問題を抽出できる									
		4)収集した情報の整理分類ができる									
		5)収集した情報のアセスメントを行い看護上の問題点を抽出できる									
		6)看護問題の優先順位を判断し、それをふまえた看護計画が立案できる									
		7)看護計画に基づき実施できる									
		8)術前オリエンテーションが実践できる									
		9)術前訓練が実施できる									
		10)手術前日・当日の看護が実践できる									
3・4		【術中の看護(手術室見学実習)】									
		1)手術室の環境管理について理解する				(1)手術室の見学・説明 (2)スタッフ構成について説明、スタッフの種類と人数構成 (3)清潔野・不潔野の区別を把握 (4)リスクマネジメント					
		2)手術を受ける患者に対する看護の役割について理解する				(1)病棟からの申し送り聴取 (2)前投薬の種類や意義 (3)不安の緩和に対する援助					
		3)手術中の看護を理解する				(1)麻酔導入時の看護を見学 (2)術中の呼吸・循環管理を見学 (3)直接介助看護の見学					

		(4)同僚で初看護の兄子 (5)麻酔終了時の看護の見学	
	4)手術直後の看護を理解する	(1)手術直後の観察項目とその方法を見学 (2)苦痛の緩和	
	5)手術室と病棟との継続看護について理解できる	(1)手術室から病棟への申し送りの見学	
1	【術後の看護】 1)術後の対象の回復過程や身体的変化について情報収集ができる	(1)手術後の一般状態について把握 (2)術後合併症の原因や誘引を把握 (3)ME機器の取り扱いの説明 (4)早期離床の目的を理解し実践できる	
	2)対象者や家族の術後の障害の受け止め方や心理状況を理解できる 3)疾病の回復促進や機能回復に向けての援助が理解できる	(1)手術による形態、機能の変化の観察 (1)回復促進に向けての援助やリハビリテーションの目的や方法が理解できる	
	4)収集した情報の整理ができ、看護問題を抽出し、計画が立案、実践できる	(1)収集した情報の整理・分類を行い、記録用紙に記述する (2)看護問題を抽出することができる (3)看護目標は達成可能な目標を設定する (4)計画立案する (5)実施した援助内容や観察したことを記録する	
	5)計画の評価・修正ができる	(1)看護計画にそって実施した看護援助が妥当であったか、また目標達成できたかを評価する (2)評価後看護計画の再アセスメントを行い追加修正する	
2・3	6)実施した看護を要約し、継続看護へ結びつけることができる 7)周手術期における看護の役割を説明できる	(1)看護要約(看護サマリー) (1)手術を受ける対象の過程にかかわる医療チームを把握 (2)医療チームのかかわりを通して連携の重要性の把握	
	8)対象に必要な社会資源を述べることができる	(1)社会資源の種類、制度、活用方法について学ぶ	
5	1)実習を通して急性期の看護について記述できる	(1)実習を通して、急性期の看護について振り返る	
4	【集中治療室見学実習】 1)集中治療室の特徴について理解する	(1)集中治療室の見学 (2)スタッフ構成について (3)集中治療室管理の対象患者について (4)集中治療室における看護記録について (5)安全管理について	
	2)集中治療を受ける患者への看護の役割を理解する	(1)集中治療を受ける患者及び家族の特徴 (2)看護の実際	
4	【救急外来室見学実習】 1)救急外来室の特徴について理解する	(1)救急外来室の見学 (2)スタッフ構成について (3)救急室の対象患者について (4)救急室における看護記録について (5)安全管理について	
	2)救急患者への看護の役割を理解する	(1)初療室における患者受け入れ (2)救急治療を受ける患者及び家族の特徴 (3)看護の実際	
使用テキスト		評価方法	
		・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書			
・特になし			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
成人・老年看護学実習Ⅲ				企業実習者・専任教員				看護師			
								有無		有	
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数						講義の種類			
3年次／前期		90時間／2単位／12日						実習			
講義の目的と目標											
【目的】											
健康障害・疾病をもつ高齢者・家族を理解し、適切な援助を提供できるように、多職種と連携した成人・老年看護実践能力を養う。 在宅復帰を見据えた退院調整、回復期リハビリテーション看護について、多職種との連携を通して看護師の役割を理解できる。											
【目標】											
1.成人期・老年期の身体的・精神的・社会的特徴やこれまでの生活史を踏まえ、成人期・老年期の対象及びその家族との信頼関係を築くことができる。 2.成人期・老年期の対象の健康障害・健康レベルを理解し、科学的根拠に基づいた対象のアセスメントを行うことができる。 3.個性性を踏まえたADL・QOLの維持・向上を目指した看護過程の展開ができる。 4.成人期・老年期にある対象の生活史や個性性を踏まえた教育支援やリハビリテーション看護が実践できる。 5.成人期・老年期の対象及びその家族を支える保健医療福祉チーム・多職種との連携を学び、地域で生きることを見据えた継続看護の意義が理解できる。 6.実習を通して、自己の看護観を養う。											
目標		行動目標				実習内容				教育方法	
1		1)成人期・老年期の特徴を理解し、対象者及びその家族に対しあらゆる方法を用いてコミュニケーションをとることができる 2)あらゆる情報源から、受持ち患者に対する情報を収集できる				(1)成人期・老年期の特徴を3側面から想起する(既習学習の思い起こし) (2)健康障害のある対象の様々な情報を捉えることができるように、高齢者の感覚機能・認知機能の低下に対してどのような方法を用いたら良いか検討する (3)健康障害のある対象・家族を尊重する為に、対象の経験や生活史からの情報を基に、傾聴・共感・受容的態度で接する (4)得られた情報から、入院が対象・家族の3側面に及ぼす影響について考える (5)看護サービス提供体制について理解させ、病棟看護師との報告・連絡・相談の場面で実践する				実習	
2		1) 受持ち患者の健康障害が何故起こっているかを、科学的根拠を用いて説明できる				(1)対象の現病歴や既往歴について(既習講義の思い起こしや調べ学習から)、病態生理を関連付けて説明できるように考える(Ⅲ-5) (2)疾患や加齢による変化を対象と照らし合わせ、情報の解釈・分析をする(Ⅲ-2.3)					
3		1)全体像から看護の焦点を導き出すことができる 2)看護計画に対して、生活者としての視点から優先順位を考え、看護計画を立案することができる 3)対象者のQOLの向上に向けた援助を実践できる 4)対象者の個性性に応じた看護援助を実践できる				(1)関連図を活用し対象の全体像を整理し、看護の焦点として明確にする (1)「対象の生活に及ぼす影響の大きさ」から優先順位を考慮し、看護計画を立案する (1)看護目標をRUMBAの法則で記述できる (2)計画に基づいた看護援助を実施する					
4		1)対象の個性性を活かした教育支援の方法を考え、実践することができる 2)対象の意思を尊重したりリハビリテーションを多職種と共に遂行し、退院後の生活を見据えた自立支援と環境調整を行うことができる				(1)PT・OT・ST、栄養士、MSW、医師と連携し、専門的な視点を取り入れ、科学的根拠に基づいた教育支援が実践する (2)対象者やその家族の生活史や興味を活かし、その要素を指導媒体に取り入れる等、個性性的のある指導媒体を作成する (3)対象がセルフケア能力を再獲得できるように看護支援する (1)受持ち患者が日々のリハビリを遂行するための健康・体調管理を行う (2)残存機能を活かし、訓練の視点をもった日常生活動作に対する援助を行う (3)対象のボディイメージの変化や、障害受容過程を理解した精神的援助を実践する					
5		1)病院における保健医療福祉システ				(1) 老年看護における保健医療福祉の連携を知り、受持ち患者					

6	ムについて知ることが出来る 2)保健医療福祉システムにおける多職種の役割と看護の役割が理解できる 3)高齢者の健康レベルに応じた継続看護の必要性を理解できる 1)実習を振り返り自己の看護観を記述できる	が活用できる社会資源は何かを検討する (1)対象の健康レベルに応じた入院・退院の調整会議・カンファレンスに参加する (2)介護保険の実態調査(家族を含めて)や、多職種カンファレンスに参加する (3)実習終了後、自己の作成した看護計画に対して看護要約を記述する (1) 老年看護の役割をまとめる (2) 高齢者との関わりから自己の看護観をまとめる
使用テキスト		評価方法
		・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習
参考図書		
・特になし		

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
小児看護学実習				企業実習者・専任教員				看護師			
								有無		有	
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数						講義の種類			
3年次／前期		90時間／2単位／12日						実習			
講義の目的と目標											
【目的】											
小児看護における対象の特徴を理解し、健康段階に応じた子どもの成長発達を促すとともに、子どもと家族に必要な支援の実際を学ぶ。											
【目標】											
1. 子どもの成長発達の特徴を理解し、基本的日常生活の自立状況に合わせた支援ができる。											
2. 健康課題が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、対象に必要な支援を実践することができる。											
3. 多職種との連携の必要性やチームの一員として小児看護の役割について理解する。											
4. 子どもの安全管理を理解する。											
5. 小児外来の看護師の役割を理解する。											
6. 子どもの看護に関心を高め自己の看護観を深める。											
7. 保育の実際をととして、健康児の成長発達段階に応じた日常生活に必要な支援ができる。											
8. 障害児の療育の実際をととして、成長発達を促す方法を理解する。											
目標		行動目標				実習内容				教育方法	
										実習	
1		【病院】 1)発達段階に合わせたコミュニケーションがとれる 2) 受け持ち患児の成長発達、日常生活の情報収集できる 3)発達段階に応じた日常生活、遊び、学習の支援が出来る				(1) 子どもの人権を尊重した関わりができる (2) 対象の健康段階、発達段階、生育歴、家族 関係、生活環境に関する情報を人的・物的資源を活用し、意図的・計画的な収集 (1)小児各期の成長発達段階と課題 (2)受け持ち患児の成長発達段階、基本的な生活習慣の発達段階のアセスメント (3) 受け持ち患児の自立障害の原因をアセスメント (1)入院患児の発達段階に応じた食事、清潔、排泄、遊び等生活の支援					
2		1)受け持ち患児の健康段階について記述できる 2)入院環境が子どもに及ぼす影響について記述できる。 3)患児の発達段階に応じた看護ができる 4) 入院に伴う家族の心理的・社会的側面の影響を理解し、支援ができる				(1) 患児の健康段階についてアセスメント (2)バイタルサイン測定 (3)身体計測 1)入院の影響による生活リズムの変化についてアセスメント (1) 患児の症状観察 (2) 患児の発達段階に応じた生活習慣の支援 (3) 遊びを通して患児との関係性を築く (4) 発達段階に応じたプレパレーションツールを使用しての教育支援 (1)入院に伴う家族の心理的・社会的側面への影響の理解 (2)社会資源の理解					
3		1)小児看護の役割を学び、チームの一員としての行動がとれる 2)多職種連携の必要性を理解する				(1)看護師の役割を理解 (2)多職種の役割を理解					
4		1)病棟における小児の事故について対策ができる 2)病棟における感染予防について対策ができる				(1)子どもの発達段階と起こりやすい 事故の理解 (2)子どもの発達に応じて安全な環境を整えることができる (3) 子どもの発達に応じて、安全教育ができる (1)子どもの発達段階に応じて感染予防の支援ができる					
5		1)小児科外来の看護師の役割について理解する				(1)小児及び家族の状態観察 (2)プレパレーションの実際 (3)家族へのホームケアの実際 (4)診察、治療、処置の介助 (5)多職種との連携 (6)身体計測の実際 (7)事故防止 (8)感染予防 (9)定期予防接種の種類と接種方法					

6	1)小児看護を通して、健常児、障害児、病児の子ども観を記述できる	(1)実習を通して、自己の子ども観について振り返る	
7	【保育園】 1) 保育の実際をととして、健常児の成長発達段階に応じた日常生活に必要な支援ができる 2)子どもの安全を守るための環境を理解する	(1)健常児の成長発達段階の特徴 (1)事故防止 (2)感染防止	
8	【事業所】 1)子どもの安全を守るための環境を理解する 2)障害児の療育の実際をととして、成長発達を促す方法を理解する	(1)事業所オリエンテーション (2)障害児の成長発達段階の特徴	
使用テキスト		評価方法	
		・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書			
・特になし			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
母性看護学実習				企業実習者・専任教員				看護師・助産師			
								有無		有	
年次／開講時期			時間数／単位数／実習日数					講義の種類			
3年次／前期			90時間／2単位／12日					実習			
講義の目的と目標											
【目的】											
母性看護の対象を理解し、女性の健康に関する活動の実際を見学あるいは実施することで、保健医療福祉チームの一員としての役割を学ぶ。また、周産期における対象の心身の変化を理解、対象及び家族に適した看護が実践できる基礎的能力を養う。											
【目標】											
1. 母性看護の対象と母性各期の特徴が理解できる											
2. 周産期における女性の心身の変化及び新生児の生理的変化を理解し、対象を中心にその家族に適した看護が実践できる											
3. 地域・施設の機能と母性看護の役割を理解できる											
4. 母子支援に対する社会資源を知り、母子保健医療福祉におけるサポートシステムが理解できる											
5. 実習を通して、自己の生命観及び母性・父性観を育むことができる											
目標											
目標		行動目標			実習内容					教育方法	
3		【助産所】 1) 助産所の構造・機能を知る 2) 看護職としての助産所における助産師活動を知る 3) 利用者の保健行動を知ることができる 4) 助産師と利用者との関わりを通して保健活動の実際を知る			(1) 助産所の構造・機能 (2) 開業助産師の活動 (3) 助産師の開業権 (1) 利用者とのコミュニケーション (2) 対象の身体的・心理的・社会的側面の理解 (3) 保健活動の実際					実習	
4		1) 保健医療福祉チームの一員としての役割について考える 2) 助産所と病院の連携の重要性を知る			(1) 地域における助産所の役割 (2) 母子保健活動における看護の役割 (3) 助産所と病院の連携						
3		【子育て支援センター】 1) 子育て支援センターの役割について知ることができる			1) 子育て支援センターについて (2) 地域で生活する母子のニーズ						
4		2) 子育て支援センターで行われている活動に参加し、利用者へのサポート体制を知る 3) 母性看護における継続看護の必要性を理解できる			(1) 地域における子育て支援センターの活動 (2) 利用者の情報収集 (3) 利用者からの評価・感想など (1) 看護職の役割 (2) 関係機関・職種との連携						
3		【診療所実習：不妊治療と看護】 1) 診療所の構造・機能を知る 2) 看護職としての活動を知る 3) 対象者が来所するまでの経過が理解できる 4) 不妊治療と看護の実際を知る			(1) 診療所の構造・機能 (2) 不妊治療専門機関としての役割 (3) 看護師の活動 (1) 対象の身体的・心理的・社会的側面の理解 (2) 不妊治療と看護の実際 (3) プレコンセプションケア						
4		1) 保健医療福祉チームの 一員としての役割について考える 2) 診療所と病院との連携の必要性を知る			(1) 関係職種との連携 (2) 地域における診療所の役割 (3) 診療所と病院の連携						
3		【病棟・外来オリエンテーション】 1) 病院における母性看護の役割と機能が説明できる			(1) 病棟・外来の見学						
4		1) 保健医療福祉チームの一員としての役割について考える 2) 地域との連携の必要性を知る			(1) 関係職種との連携						

1・2 ・3	【妊婦の看護 産科外来】	
	1) 妊婦健康診査の目的・内容・方法を説明できる	1) 妊婦健康診査の見学および一部実施
	2) 妊娠中に行われている検査・計測の意義を説明でき、一部実施できる	(2) 診療の介助の見学
	3) 外来受診時の対象の心理状態を理解し、配慮することができる	(3) 受け持ち妊婦を3側面から理解する
	4) 妊娠週数に伴う母体・胎児の生理的変化を理解できる	(4) 保健指導の見学
	5) 各計測・検査の結果から正常な経過をアセスメントすることができる	
	6) 妊娠各期の過ごし方について考えることができる	
	7) 対象を取り巻く環境を知り、サポートの必要性について考えることができる	
	8) 母親役割の受容過程について理解できる	
4	9) 対象に応じた指導の必要性や指導方法について説明できる	
	1) 母性看護における継続看護の意義と必要性が理解できる	(1) 妊婦健康診査の必要性和意義 (2) 妊娠届の必要性 (3) 母子健康手帳 (4) 産婦健康診査
5	1) 母胎に宿る生命の神秘を感じることができる	(1) 生命の尊厳 (2) 手段
1・2 ・3	【産婦の看護】	
	1) 分娩の生理的経過を説明できる	(1) 分娩経過における判断項目
	2) 産婦の分娩進行状態の情報を収集し、正常な分娩経過で進行しているのか考えることができる	(2) 分娩第Ⅰ期～第Ⅱ期の看護
	3) 産婦とその家族への分娩進行に伴う援助について理解でき、一部実施することができる	(3) 分娩第Ⅰ・Ⅱ期の援助
	4) 産婦の基本的ニーズを理解し、それに対する援助ができる	
1・3	5) 産婦の心理を理解し、苦痛や不安の緩和を図ることができる	
	6) 出生直後の早期母子接触の意義について理解でき、母子の反応を観察することができる	(4) 分娩第Ⅲ期の観察と援助 (5) 分娩第Ⅳ期の観察と援助
5	1) 「生命誕生」の場面を通して、生命観及び自己の母性・父性観について考えることができる	(1) 生命とは (2) 自己の誕生 (3) 自己のアイデンティティの受容 (4) 自己の中の母性・父性
1・2 ・3	【褥婦の看護】	
	1) 正常な産褥経過が理解できる	1) 身体的側面の観察と援助
	2) 産褥期の対象を3側面で捉え、産褥経過のアセスメントができる	
	3) 正常な産褥経過がたどれるよう褥婦の状態にあわせた支援が展開できる	
1・2	4) 母子相互作用を理解し、促進するための支援が展開できる	2) 褥婦の心理的側面の観察と援助 3) 褥婦の社会的側面の観察と援助
	5) 計画・実施した看護を振り返り評価・	(1) 評価

・3	修正できる	(2)修正	
1・2	【新生児の看護】		
・3	1) 出生直後の新生児の看護が理解でき、必要性について述べるができる	(1) 出生直後の新生児の観察と処置の見学及び一部実施	
	2) 新生児の生理的变化を理解し、逸脱している場合はその要因を述べるができる	(2) 新生児の観察	
	3) 新生児の基本的ニードに対する援助が理解でき、一部実施することができる	(3) 新生児の基本的ニードに対する援助の見学・実施	
5	1) 新生児とのコミュニケーションを通し、生命力を感じることができる	(1) 新生児とのコミュニケーション (2) 生命の尊厳	
使用テキスト			評価方法
			・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習
参考図書			
・特になし			

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		専門分野臨地実習					
科目名				実務経験のある教員名				実務経験の反映状況など			
精神看護学実習				企業実習者・専任教員				看護師			
								有無		有	
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数						講義の種類			
3年次／前期		90時間／2単位／12日						実習			
講義の目的と目標											
【目的】											
精神に障害のある人との関わりを通して、対象の特徴や対象を取り巻く環境を理解し、精神的健康の回復への援助を実践できる基礎的能力を養う。											
【目標】											
1. 精神に障害をもつ患者の特徴を理解する。											
2. 対象の治療的環境を知り精神科の特性について理解する。											
3. 対象との相互作用の中で自己理解、他者理解に努め、看護師としての自分自身をみつめることができる。											
4. 受持ち患者のニーズを把握し、個別性をふまえた看護過程の展開ができる。											
5. 精神科病院および地域で行なわれている保健医療福祉のアプローチについて知り多職種との連携の必要性やチームの一員としての看護の役割と機能について学ぶことができる。											

使用テキスト		評価方法	
		・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書			
・特になし			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護の統合と実践実習		企業実習者・専任教員		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／実習日数		講義の種類	
3年次／後期		90時間／2単位／12日		実習	
講義の目的と目標					
【目的】					
臨地実習で習得した看護実践を行うための基礎的能力を生かし、複数患者の受け持ちや日勤帯を通した実習、看護チームの一員としての体験によって知識、技術、態度を統合し臨床に即した看護実践力を身につける。					
【目標】					
1. あらゆる発達段階にある対象を統合された存在として理解することができる。					
2. 対象の尊厳を守り、複数患者に応じた援助技術を理論的根拠に基づいて安全に実践できる。					
3. 複数患者の健康問題を統合的に把握し健康レベルに応じた看護過程が展開できる。					
4. 看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解しチームメンバーや多職種と連携を図ることができる。					
5. 看護管理の実際を知ることにより保健、医療、福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。					
6. 日勤帯を通した夜勤から日勤への看護体制や業務内容を理解する。					
7. 自己の看護実践能力を高め、主体的に学習し研鑽する基本的態度を身につける。					
8. 統合実習を通して看護観を深め看護師としての自己の課題を明確にする。					
目標	行動目標		実習内容		教育方法
1 2 3	1)複数患者を受け持ち優先順位を考慮して看護を実践できる 2)複数患者に必要な看護計画(行動計画)を立案し科学的根拠に基づいて安全に看護実践ができる 3)医療安全を守る為のコミュニケーションが図れる 4)複数患者の情報をアセスし看護問題を整理できる 5)看護問題の優先順位の高いものから看護計画を立案、実施し評価ができる 6)日常生活援助、診療補助業務が医療安全の視点でどのように実践されているか理解できる		(1)複数の受け持ち患者や看護チームメンバー、多職種とのよりよいコミュニケーションを図り円滑な対人関係を形成できる (2)複数患者の優先順位を考慮した看護実践		実習
4 5	1)看護チームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解できる 2)看護管理の実際について理解できる 3)地域連携室または入退院支援室の実際について理解できる		(1)調整の役割と業務の実際 (1)病院組織における看護管理 (2)病棟管理者の役割と業務 (1)病院内における病床の調整 (2)入院受け入れ(前方連携) (3)退院調整(後方連携)入院や退院に向けての他機関、多職種との連携の在り方		
6	1)日勤帯実習を通して日勤から夜勤、夜勤から日勤の看護体制や業務内容の変化を理解できる		(1)複数患者を受け持ち優先順位を考慮した看護実践ができる (2)夜勤から日勤への看護体制や業務内容を習得する		
7 8	1)グループとしての役割(メンバーシップ、リーダーシップ)が図れる 2)十分に事前学習をして実習に臨める 3)看護師としての自己の課題を明確にする		(1)カンファレンスを学生が主体的に運営しメンバーシップ、リーダーシップが図れる (2)自分の考えをまとめ積極的・主体的に発言できる (3)グループメンバーの一員として積極的に行動できる (1)統合実習に必要な知識、技術を事前に予習、復習し実習に臨む (2)すべての提出物は期限までに提出できる 統合実習を通して看護観を深め今後の看護師としての課題を明確にできる		

使用テキスト	評価方法
	・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習
参考図書	
・特になし	